

別添1

平成27年度 業務実績報告書（様式）

及び中期目標期間(平成24年度～平成27年度)業務実績報告書

平成28年6月

公立大学法人九州歯科大学

法人の概要

1. 基本的情報	
法人名	公立大学法人 九州歯科大学
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目6番1号
設立の根拠となる法律	地方独立行政法人法
設立団体	福岡県
資本金の状況	19,679,209,480円(全額 福岡県出資)
沿革	<p>大正 3年(1914)4月 私立九州歯科医学校(2年制)を創設</p> <p>10年(1921)4月 九州歯科医学専門学校(4年制)に昇格</p> <p>昭和19年(1944)4月 福岡県に移管、医学科を設置し福岡県立医学歯学専門学校に改称(昭和22年4月医学科廃止)</p> <p>24年(1949)4月 九州歯科大学に昇格</p> <p>平成18年(2006)4月 公立大学法人九州歯科大学を設立</p> <p>22年(2010)4月 口腔保健学科を創設</p> <p>26年(2014)5月 創立百周年記念式典を開催</p>
法人の目標	<p>公立大学法人九州歯科大学では、豊かな人間性と探求心を育む歯科医学教育を学生に提供し、的確な判断力と高い技術力のもとより、乳幼児から高齢者まで、あらゆる世代の健康管理が行える歯科医師及び歯科衛生士を育成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 教育: 歯科保健医療の分野において活躍する優秀な医療人を育成する。 <ul style="list-style-type: none"> 地域の発展に貢献する歯科医師及び歯科衛生士の育成 適性のある優秀な人材の確保・育成 教育の質の改善 学生への支援 研究: 大学の教育や社会の発展に役立つ研究を推進する。 <ul style="list-style-type: none"> 研究水準並びに研究成果の向上 社会貢献: 大学の保有する人材、知識、施設等を社会のために活用する。 <ul style="list-style-type: none"> 地域社会への貢献及び国際交流に関する体制の構築・実施 業務運営: 理事長のリーダーシップのもと、主体的・自律的な大学運営を確立する。 <ul style="list-style-type: none"> 運営体制の改善 人事の適正化 財務: 経営者の視点に立って、法人の財政運営を行う。 <ul style="list-style-type: none"> 自己収入の増加 経費の抑制 附属病院経営の改善 評価及び情報公開: 評価を厳正に実施し、大学運営に反映する。また、大学情報を積極的に公開する。 <ul style="list-style-type: none"> 評価の充実 情報の公開等の推進

法人の業務	1. 九州歯科大学を設置し、これを運営すること。 2. 学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康等に関する相談その他の援助を行うこと。 3. 法人以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う研究の実施その他の法人以外の者との連携による教育研究活動を行うこと。 4. 公開講座の開設その他の学生以外の者に対する学習の機会を提供すること。 5. 教育研究の成果を普及し、及びその活用を促進すること。 6. 前各号の業務に附帯する業務を行うこと。							
2. 組織・人員情報								
(1)役員								
役員の数等は、公立大学法人九州歯科大学定款第7条の規定により、理事長1人、副理事長1人、理事5人以内、監事2人と定めている。また役員任期は、同定款第11条の規定に定めるところによる。								
役職	氏名	任期	主な経歴					
理事長(学長)	西原 達次	平成24年4月1日～平成28年3月31日	九州歯科大学 学長					
副理事長	久藤 元	平成24年4月1日～平成28年3月31日	元 米国安川電機 取締役会長					
常務理事(事務局長)	福島 望	平成27年4月1日～平成28年3月31日	九州歯科大学 事務局長					
理事(学外)	國武 豊喜	平成26年4月1日～平成28年3月31日	北九州産業学術推進機構 理事長					
理事(学外)	利島 康司	平成26年4月1日～平成28年3月31日	北九州商工会議所 会頭					
理事(学内)	柿木 保明	平成27年4月1日～平成28年3月31日	附属病院長・副学長 (老年障害者歯科学分野教授)					
理事(学内)	日高 勝美	平成27年4月1日～平成28年3月31日	副学長 (口腔保健管理学分野教授)					
監事	廣瀬 隆明	平成26年4月1日～平成28年3月31日	廣瀬公認会計士事務所 所長					
監事	服部 弘昭	平成26年4月1日～平成28年3月31日	ナリッジ共同法律事務所 弁護士					
(2)教員								
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
教員数	常勤(正規)	120人	120人	120人	121人	121人	121人	
	内訳	教授	25人	26人	26人	27人	27人	30人
		准教授	18人	20人	19人	21人	21人	22人
		講師	10人	8人	8人	12人	11人	15人
		助教	67人	66人	67人	61人	65人	54人
		助手	—	—	—	—	—	—
	非常勤講師	144人	173人	196人	203人	210人	177人	
合計	264人	293人	316人	324人	331人	298人		
教員数増減の主な理由								
常勤教員によって行う授業数の増加に伴う非常勤講師の減少。								

(3)職員							平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
職員数	事務局長		1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人
	正規職員	県派遣	38人	36人	33人	31人	24人	22人				
		プロパー	24人	24人	32人	37人	51人	53人				
		他団体派遣	人	人	人	人	人	人				
		その他	人	人	人	人	人	人				
		計	62人	60人	65人	68人	75人	75人				
	嘱託(常勤・非常勤)等・臨時	54人	61人	61人	70人	55人	59人					
	合計	117人	122人	127人	139人	131人	135人					
職員数増減の主な理由												
新規事業等業務拡大。												
(4)法人の組織構成												
歯学部、附属病院、附属図書館、大学院歯学研究科、事務局												
3. 学生に関する情報												
関連する学部・大学院	学部学科、大学院研究科	収容定員 (a)	収容数 (b)	定員充足率 (b)/(a)×100	定員充足率の推移 (%)							
					22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度		
大学	計	776人	752人	97%	96	94	94	96	95	97		
内訳	歯学部	670人	680人	101%	100	99	99	102	100	101		
	歯学科	570人	582人	102%	99	99	99	102	101	102		
	口腔保健学科	100人	98人	98%	100	100	100	99	98	98		
	大学院 歯学研究科	106名	91人	86%	79	72	65	63	75	86		
収容定員と収容数に差がある場合の主な理由												
歯学部口腔保健学科: 年度途中で退学した学生がいたことによるもの。 大学院: 大学院に進み研究を志す学生が減少する傾向にあり、定員に満たない入学状況が続いていたことによるもの。												

4. 審議機関情報			
(1)経営協議会			
区分	氏名	任期	現職
理事長	西原 達次	平成24年4月1日～平成28年3月31日	九州歯科大学 理事長
副理事長	久藤 元	平成24年4月1日～平成28年3月31日	九州歯科大学 副理事長
学外委員	石束 隆男	平成26年4月1日～平成28年3月31日	製鉄記念八幡病院 理事長
	大川 博己	平成26年4月1日～平成28年3月31日	北九州市産業経済局 担当理事
	木瀬 照雄	平成26年4月1日～平成28年3月31日	TOTO(株) 取締役相談役
	固谷 寛	平成27年4月1日～平成28年3月31日	福岡県立小倉高等学校 校長
	芳賀 晟壽	平成26年4月1日～平成28年3月31日	(社福)年長者の里 理事長
	長谷 宏一	平成26年4月1日～平成28年3月31日	福岡県歯科医師会 会長
	松延 彰友	平成26年4月1日～平成28年3月31日	九州歯科大学同窓会 会長
(2)教育研究協議会			
区分	氏名	任期	現職
学長(理事長)	西原 達次	平成24年4月1日～平成28年3月31日	九州歯科大学 学長
学部長	細川 隆司	平成26年4月1日～平成28年3月31日	九州歯科大学 歯学部長
学内組織の長	柿木 保明	平成26年4月1日～平成28年3月31日	九州歯科大学 附属病院長、副学長
	福島 望	平成27年4月1日～平成28年3月31日	九州歯科大学 事務局長
	自見 英治郎	平成26年4月1日～平成28年3月31日	九州歯科大学 大学院歯学研究科長
	鱒見 進一	平成26年4月1日～平成28年3月31日	九州歯科大学 附属図書館長、副学長
	日高 勝美	平成27年4月1日～平成28年3月31日	九州歯科大学 副学長

全体評価

中期目標項目	法人自己評価	評価委員会意見・コメント等
I. 全体	<p>【平成27年度】 本学は、全国唯一の公立歯科大学であるという特色を活かし、高度な専門性を持った歯科医療人を育成することを重要視し、特色のある教育や地域社会の発展に役立つ研究を推進する等の目標を掲げたところである。 この実現に向け、理事長の強いリーダーシップのもと、それぞれの組織、役職の役割を明確にするとともに、主体的、自立的な大学運営を進めるガバナンス体制を整備し、経営者の立場に立った適正な財政運営、厳正な評価の実施、積極的な情報公開等に取り組んできた結果、計画に掲げた事項については、概ね達成することができた。</p> <p>【中期目標期間(平成24～27年度)】 本学は、全国唯一の公立歯科大学として長い歴史と伝統を持ち、その特色を活かしたプロフェッションとしての歯科医療人の育成や地域社会の発展に役立つ歯科医学研究を推進してきた。平成26年には創立百周年を迎え、さらに充実した教育・研究・臨床活動を展開すべく活動を行っている。 目標の実現においては、理事長の強いリーダーシップのもと、主体的、自立的な大学運営を進めるガバナンス体制を整備した。また、学生、教員、職員がそれぞれの役割を果たすことで、全学をあげて中期目標達成に向けて効率的に取り組んでいるところである。 その結果、中期計画に掲げた事項の多くは達成することができており、残りの期間において全て達成することができるよう活動を続けていくものである。</p>	
II 中期目標項目別 1. 教育	<p>【平成27年度】 歯学教育センターを立ち上げいち早く歯学部教育再編に着手し、歯学科においては臨床実習開始前のシミュレーション実習、臨床推論教育を充実させるなど、臨床を主眼においやカリキュラムの編成に努めた。口腔保健学科においては、修士課程の開設から1年経過したことを機に、学士教育の観点に立ち大幅な見直しを行った。 FD活動については、企画立案を副学長の職務として位置づけ、教員からテーマや講師の要望を聞き取るなど、内容の充実を図った。また、教員の個人業績評価について、優れた教育を実践する教員を顕彰する制度を構築した。 受験生に向けたオープンキャンパスに併せて、進路指導教諭を対象とした大学施設見学会を実施するなど、優れた資質・高い意欲を持った学生の確保を図った。 学生支援の面では、就職支援会議において組織的な対応を行ったことで、口腔保健学科は3年連続で就職率100%を達成することができた。</p> <p>【中期目標期間(平成24～27年度)】 初年次教育から登院実習までの一連の教育を充実させるために、歯科基礎・臨床医学教育、及び診療参加型臨床実習の連続的な歯科教育カリキュラムを編成した。また、歯科医学教育センターを設置し、早期登院実習カリキュラムの内容の充実、アウトカム基盤型教育転換を促進し、優れた歯科医療人の育成に努めた。 平成27年度から、評価担当の副学長職を新たに設け、教員の教育能力向上と教育活動の活性化を図るためのFD活動の推進を図った。また、教員の業績評価について相対評価を改め、自己評価書等に基づき、分野長、学部長、学長が多面的に評価を行うシステムを構築した。優れた教育を実践する教員については、顕彰制度を構築し、平成27年度にその対象者を2名決定した。 入学者の受け入れについて、平成24年度よりアドミッションポリシーの観点から個別入試及びAO入試結果の検証を行い、平成27年度からは入試科目の変更を行った。また、高大連携活動に力を入れ、その中で、高校教諭対象の大学説明会を行うなど、高校教諭との意見交換を積極的に行い、より学ぶ意欲の高い学生の獲得に努め、今後国策として進められる「高大改革」に向けて、いち早く対応を開始した。 平成24年度より、学生に対する学生支援アンケート調査と投書箱の設置を行い、学生の要望や意見を聞き取る仕組みを作った。また、口腔保健学科においては、就職支援体制を充実させることに努め、平成27年度までの卒業生については就職率100%となっている。法人化後、教職員に対して学生に向き合う姿勢の強化を求めるとともに「教職協働」の意識の醸成を図った。</p>	
2. 研究	<p>【平成27年度】 外部大型資金として、文部科学省補助金事業「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COCプラス)」に連携校として参加し採択を受けた。福岡県重点施策のなかで、県と協働で高齢者のQOL支援に係る実践的教育や地元企業との連携によるビジネス創出に向けて活動を開始した。また、教員個人による外部資金の獲得については、科学研究費が85件採択され、目標を大きく上回った。 各教員の研究活動の中で、客観的評価の高い研究内容や、大学が推進する研究成果をホームページで積極的に公開した。また、研究成果を知的財産の観点から検証する発明委員会を2回開催し、研究成果の社会における活用に努めた。</p> <p>【中期目標期間(平成24～27年度)】 平成24年度には大学間連携共同教育推進事業として、『地域連携による「ものづくり」継承支援人材育成協働プロジェクト』に採択され、福岡県の産業に貢献する研究活動の推進を開始した。また、ほかにも大学として、外部大型資金の獲得を目指した結果、医歯工学連携や「課題解決型高度医療人材養成プログラム」、「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COCプラス)」を獲得することができた。 個人研究費においては、科学研究費の採択率は例年目標を上回っており、常に採択率は全国上位となっている。 平成24年度には、第2期中期目標の達成に資する研究に重点配分する学長重点研究費の仕組みを設けた。この研究費を活用して、国際会議であるAsia-Pacific Conference in Fukuokaを平成25年より毎年開催し、研究成果の国内外への発信を行っている。</p>	

3. 社会貢献	<p>【平成27年度】 地域社会への貢献に関しては、公開講座等を11回実施し、地域住民に研究成果等の有用な情報発信を行った。今年度は近隣の看護学科・栄養学科を有する大学と連携した公開講座を数多く実施した結果、歯科だけでなく周辺領域の知識について併せて情報発信することができ、地域住民から高い支持を得た。また、地域住民の健康増進のために、大学近隣の保育園、幼稚園、老人クラブにおける講演や口の悩みに対する相談にも積極的に取り組んだ。</p> <p>国際交流に関しては、九州歯科大学基金を活用して、学術交流協定締結校と本格的な学術交流を展開した。大学院にタイのシーナカリンウィロート大学から1名の学生が入学し、博士(歯学)修得に向けて励んでいる。また、本学の正規の単位認定選択科目として短期派遣プログラムが本格的に実施されるだけでなく、学術交流協定締結校の学部学生の受け入れも本格的に開始した。</p>	
	<p>【中期目標期間(平成24～27年度)】 地域住民への情報発信の場として、公開講座を積極的に開催し、研究成果の発信を行っている。また、歯科医師会で公開講座を行うことで、地域の歯科医療関係者のキャリアアップに尽力している。</p> <p>大学近隣の保育園、幼稚園、老人クラブにおける講演や口の悩みに対する相談の受付、在宅療養をしている高齢者に対する支援など、歯科保健医療サービスの提供体制を整えた。これらの活動の基盤研究を展開するために、平成27年から寄附講座「高齢者支援学」を立ち上げ、客員教授とともに積極的な活動を行っている。</p> <p>海外大学との学術交流を積極的に展開し、平成24年から平成27年にかけて7カ国9大学と連携協定を締結した。留学生を支援する制度として九州歯科大学基金を設置し、学術交流協定締結校への海外短期派遣プログラムを開始した。また、海外からの学生受け入れも積極的に行った。</p> <p>海外での保健歯科活動を推進し、ベトナムやミャンマーに専門家を派遣して、歯科保健活動を行った。特に、ミャンマーにおいては、保健省と締結書を交わし、ミャンマーにおける口腔保健の向上を目指し、本格的な活動を開始する基盤ができあがった。</p>	
4. 業務運営	<p>【平成27年度】 教員の業績に評価について、今年度から優れた教育を実践する教員の顕彰制度(ベストティーチャー賞)を構築し、教員の教育に対する意識向上を図った。</p> <p>情報セキュリティ上の脅威について、具体例を交えて教職員に注意喚起を行うだけでなく、ITセキュリティに関する予防接種(標的型メール攻撃対策訓練)を実施し、セキュリティ意識の向上を図った。</p> <p>附属病院については、診療体制の充実に向けた業務改善を行うと同時に、リスクマネジメント活動の強化に向け、医療安全管理室及び医療情報管理室の設置に関する規程等を策定した。</p>	
	<p>【中期目標期間(平成24～27年度)】 理事長のリーダーシップのもと、大学運営についての改善を図った。その際、学校教育法等の一部改正に伴い、副学長や教授会の業務の明確化を行うなど、運営体制の整備を行った。</p> <p>重要事項の企画立案・検討や情報発信を行う企画広報班を設置し、中期計画に係る進捗管理や責任体制の明確化、ホームページ・大学案内のリニューアル、UIマニュアルの策定、法人窓口としての業務を行われるなど、業務運営の円滑化において大きな役割を果たした。</p> <p>県派遣職員に依存しない事務局体制への移行を見据え、プロパー職員を計画的に採用し、事務局内全ての班にプロパー職員が配置し、事務局機能の強化を図った。</p> <p>情報マネジメントの根幹となる情報セキュリティポリシーを策定し、副理事長をCIOとした情報マネジメント体制を確立し、教員の情報セキュリティ意識の向上に努めた。</p> <p>附属病院については、診療科の再編、および体制の充実に向けて、スタッフの充実と業務改善案を具体的に提示した。</p> <p>また、地域包括医療を視野に入れた歯科医療連携体制の構築のため、理事長が目指すべき方向性を明示し、大学内に「口腔保健・健康長寿推進センター」の設置を決定した。</p>	
5. 財務	<p>【平成27年度】 外部研究資金獲得に積極的に取り組み、個人研究費については高水準を維持することができた。</p> <p>附属病院については、先進医療1件の申請を継続して行うとともに、高度な医療を提供する自費診療の推進を行った。また、医療総合病院との間で医療・教育の連携文書を取り交わし医療連携の拡大を行った。訪問診療については、引き続き力を入れて行った結果、達成目標を大幅に上回る診療が実施された。</p>	
	<p>【中期目標期間(平成24～27年度)】 大学組織として外部資金獲得に取り組んだ。あわせて、個人研究費については高い水準を維持することができた。</p> <p>附属病院については、先進医療の届出を積極的に進めた。また、医科総合病院との病病連携の実施や、紹介患者データベースシステムを構築により、地域の歯科医療機関との連携強化を行った。</p>	
6. 評価及び情報公開	<p>【平成27年度】 評価については、自己評価部会によるアンケートと調査結果をまとめた「自己評価部会だより」の配布を継続して行った。また、アンケートの指摘内容に基づき、大学施設の改善に努めた。一方で、平成28年度の大学認証評価受審に向けて、自己評価書の作成に着手した。</p> <p>「九州歯科大学憲章」を制定し、ホームページでの掲載やリーフレットの配布など学外への積極的な配信に努めた。また、文部科学省の情報ひろばにおいて、九州歯科大学の研究成果を展示を行った。</p>	

	<p>【中期目標期間(平成24～27年度)】 評価については、次期認証評価に向け、自己評価を継続的に行うとともに、業務評価の結果を適切にフィードバックし、評価結果が低かった項目については、改善を図った。 情報公開については、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー、九州歯科大学憲章をホームページ等に掲載し、広く学外へ発信した。また、UIマニュアルを整備し、広報物で使用するロゴ等の規定を行い、封筒・名刺などの配布物、ポスターなどの掲示物に記載し、全国的にアピールした。さらに、本学をPRするDVDを作成した。 平成26年には創立百周年を迎え、創立記念式典の模様を新聞各社、テレビ等を通じて情報発信を行った。さらに、大学ホームページや駅に看板広告を設置するなど、さまざまな広告媒体を使用し情報発信を行った。</p>	
<p>Ⅲ 中期目標に掲げている「重点事項」の取組状況について</p>	<p>【平成27年度】 「地域の歯科保健医療に貢献する医療人を育成するための教育を推進する」 学長主導による歯学教育センターの活動により、歯学医療人としての自覚を涵養し、実践的な臨床能力の体得ができるようなカリキュラムの編成に努めた。また、副学長を中心にFD活動を展開し、アウトカム基盤型教育や歯科医療人教育の質保証を取り上げるなど、教育の改善について教員全体で意識を高めた。このような教育の改革を進め、プロフェッションとしての歯科医療人の輩出に努めた。さらに、寄附講座「高齢者支援学」を開設し、高齢者におけるQOL向上に資する学術活動を展開した。</p> <p>「特色ある地域歯科保健医療活動を展開し、地域社会に貢献する。」 地域歯科医療の中核病院としての機能を発揮できるよう、紹介歯科医師のデータベースを拡張し、さらに医療総合病院との間で医療連携を構築した。また、要介護高齢者に対する歯科診療活動を積極的に展開し、介護病棟を有する病院の入院患者に対して歯科訪問診療、口腔衛生指導を行った。さらに今年度、北九州市立大学が主幹校として採択された文部科学省補助金事業「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COCプラス)」に、連携校として特定プロジェクトのチームリーダーとしての役割を担い、福岡県と協働で高齢者のQOL支援に係る実践的教育や地元企業との連携によるビジネス創出に向けて活動を開始した。</p> <p>「専門性を備えた人材の確保・育成を図り、事務局機能を強化する。」 県の派遣職員に依存せず、自立的な大学運営を図っていけるよう、プロパー職員を全ての班に配置して、OJTが機能する組織を目指した。SDの実施や外部研修へ積極的に派遣するだけでなく、計画的な人事異動を行うことで職員の育成を図った。また、情報セキュリティ意識の向上を促す取り組みを、企画広報班に配置した情報処理専門プロパー職員が中心となって行った。</p> <p>「全国唯一の公立歯科大学としてのブランドイメージを確固たるものにする。」 創立百周年を機に次なる世紀に向けて新たな大学づくりに踏み出すにあたり、「九州歯科大学憲章」を制定し、ホームページでの掲載やリーフレットの配布など学外への積極的な配信し、ブランドイメージの定着を図った。また、文部科学省の情報ひろばにおいて、九州歯科大学の研究成果を展示するだけでなく、同会場にて講演を行うことで積極的な情報の発信を行った。</p>	
	<p>【中期目標期間(平成24～27年度)】 「地域の歯科保健医療に貢献する医療人を育成するための教育を推進する」 歯科医療人としての自覚を高める初年次教育や、実践的な臨床能力の体得を目指すカリキュラムの編成に取り組んだ。また、歯科医学教育センターを設置し、学長主導のもとアウトカム基盤型教育への転換に向けた活動を行った。また、教員の教育力向上のために、FDを活発に行うとともに、個人業績評価システムの充実化を図った。こうした取組をはじめとして教育の充実に向け、プロフェッションとしての歯科医療人の輩出を行った。</p> <p>「特色ある地域歯科保健医療活動を展開し、地域社会に貢献する。」 地域歯科医療の中核病院としての機能を発揮できるよう、病診連携室の業務を拡充し、紹介患者データベース等のシステムの整理を行うだけでなく、医療総合病院との間で医療連携を構築し、地域包括型歯科医療連携体制を強化した。また、要介護高齢者に対する適切な歯科診療を提供できる体制を構築し、介護病棟を有する病院の入院患者に対して歯科訪問診療、口腔衛生指導を積極的に行った。さらに、平成26年度に高齢者介護施設を展開する(株)ウチヤマホールディングスとその事業展開を支援する(公財)北九州産業学術振興機構との3者で提携を結び、介護施設へ訪問し口腔ケア事業を行うなど、新たな保健医療活動を開始した</p> <p>「専門性を備えた人材の確保・育成を図り、事務局機能を強化する。」 事務局に、大学運営の企画立案・検討や情報発信を中心になって行う企画広報班を設置し、そこに情報処理専門として採用したプロパー職員を配置した。また、プロパー職員を全ての班に配置し、県の派遣職員に依存せず、自立的な大学運営を図っていける体制づくりを行った。さらに、SDの実施や外部研修へ積極的に派遣するだけでなく、計画的な人事異動を行うことで職員の育成を図った。</p> <p>「全国唯一の公立歯科大学としてのブランドイメージを確固たるものにする。」 平成26年度に創立百周年を迎えたことを機会に、創立記念式典をはじめさまざまなイベントを展開し、新聞やテレビ等のメディアを通じて、広く本学のPRを行った。また、UIマニュアルを制定し、広報物等での統一した情報発信を通じて、ブランドイメージの定着を図った。さらにアジアおよび欧米の歯科大学、歯学部との教育連携などを通じて、諸外国に向けて積極的な情報発信を行った。</p>	

項目別の状況(年度計画項目・中期計画項目)

項目	実施事項	平成27年度計画		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号				
		中期	年度		中期	年度		中期	年度			
中期目標 1. 教育	「歯科保健医療の分野において活躍する優秀な医療人を育成する。」 (1) 特色ある教育の展開 九州歯科大学は、歯科保健医療の高度な専門的知識・技術を教授するとともに、高齢者の治療や健康管理指導ができる能力、患者の痛みを理解し信頼関係を築くことができるコミュニケーション能力を育成するための教育を実施する。 (2) 教員の教育能力の向上 教員の教育能力向上と教育活動の活性化を図るため、効果的なファカルティ・ディベロップメント(FD)等の組織的な取組を推進するとともに、授業評価システムを充実させ授業改善に活用する。 (3) 意欲ある学生の確保 明確な入学受入れ方針のもと、志願者動向の分析等を踏まえた、より効果的・戦略的な広報活動を展開し大学の魅力を広く伝えるとともに、入試方法の継続的な点検・見直し、高大連携の推進などにより、大学が求める資質を持ち、学ぶ意欲の高い学生を選抜する。 (4) 学生支援の充実 学生の自主的・多面的な学習の支援、健康で充実した学生生活を送るための支援、自立した社会人・職業人となるための支援など、学生ニーズや社会状況を踏まえた学生支援体制の整備・充実を図る。											
1. 地域の歯科保健医療に貢献する歯科医師及び歯科衛生士の育成 1. 授業要綱の検証と改善 2. 成績評価基準の明確化 3. 教育の効果・成果の検証	【初年次教育の改編・充実】 ①初年次教育で、歯科医療人としての職務を体験させ、プロフェッショナルとしての自覚を高めるような教育カリキュラムを作成する。 ○達成目標 ・学生の成績：平均GPA2.5以上(満点4)	1-1	【平成27年度計画】 ○平成25年度より開始した早期登院実習カリキュラムに対する学生の授業評価がきわめて高かった。その分析結果を踏まえ、今年度からこの実習カリキュラムをプロフェッショナルリズム醸成科目の視点で充実させ、単独科目として開講する。 ○達成目標 ・学生の成績：平均GPA2.5以上(満点4)	2	【平成27年度の実施状況】 ○歯学教育全般の改編を遅滞なく進めるために、平成27年度から歯科医学教育センターを立ち上げ、学部教授会に指示する体制のもと、活動を開始した。クリニカルクラークシップ学分野教授を採用し、平成27年度より早期登院実習、および学外宿泊研修(WADS CAMP)を単独科目として開講した。 ○目標実績 ・学生の成績:平均GPA2.5(満点4)	A	【高く評価する点】 ○昨年度末の学校教育法の一部改正もあって、学長のガバナンスのもとで教育改編がより効果的に行われた。 【実施(達成)できなかった点】			1		
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)		【自己評価の修正の有無】 (決定) (理由)		【ウエイトの修正の有無】						
		年度 自己評価 評価委員会 評価 ウェイト 評価 ウェイト		業務実績評価書の記載内容								
		24										
		25										
		26										
		27										
		28										
		29										
					2	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○平成25年度より開始した早期登院実習カリキュラムを検証し、実習内容をより充実するために、平成26年度理事会にて歯科医学教育センターを設置することを決定した。そこで、歯学教育全般の改編を遅滞なく進める組織づくりを行い、平成27年度から活動を開始することとした。さらに、1年前倒しで、クリニカルクラークシップ学分野教授を採用し、早期臨床登院実習カリキュラムを単独科目として開講し、次年度にスムーズな移行が可能となった。 ○目標実績 ・学生の成績:平均GPA 2.3(H24)、2.3(H25)、2.3(H26)、2.5(H27) (満点4点) 【平成28、29年度の実施予定】 ○新規カリキュラムの検証を行い、歯科医学教育センターを中心にして、新しい教育方略であるアウトカム基盤型カリキュラムへの改変を行うためのロードマップのもとカリキュラム改編を進める。	A	【高く評価する点】 ○学長主導の歯科医学教育センター活動を予定以上のスピード感で進めることができ、OBE教育の開始時期が早まった。 【実施(達成)できなかった点】			中期 ○	
(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)		【自己評価の修正の有無】 (決定) (理由)		【ウエイトの修正の有無】								
中期目標期間評価 (暫定評価を含む)		自己評価 評価委員会 評価 ウェイト 評価 ウェイト		業務実績評価書の記載内容								
24～27年度(4年間)												
24～29年度(6年間)												

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号		
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度
2【専門課程における教育カリキュラムの検証と充実】 ①歯学教育モデル・コア・カリキュラム改訂版(H22年度)に準じて、臨床登院実習を中心に歯学科カリキュラムを充実させ、実践的歯科医師育成を推進する。 ②1～4年次の完成年度(H25)以降、卒業生の就職状況を踏まえて、口腔保健学科カリキュラムを検証する。 ③チーム医療の意識の醸成を目的とした歯学科と口腔保健学科の連携科目を開講し、口腔保健医療の総合大学としてアピールできるカリキュラムを編成する。 ○達成目標 ・学生の成績:平均GPA2.5以上(満点4)	2-1	【平成27年度計画】 ○歯学科においては、カリキュラムの大幅改編を行い、臨床実習開始前のシミュレーション実習と臨床推論教育の充実を図る。また、臨床実習修了時の学生の臨床能力評価試験を本実施とし、本学独自の臨床能力検定制設計について検討する。 ○附属病院における口腔保健学科の臨床実習開始後に、臨床能力評価試験を実施し、本学独自の臨床能力検定制を構築する。 ○カリキュラム改編により歯学科と口腔保健学科の連携カリキュラム(合同講義)を増やす。 ○達成目標 ・学生の成績:平均GPA2.5以上(満点4)		1	【平成27年度の実施状況】 ○歯学科においては、臨床登院実習カリキュラムを大幅に改編するとともに、臨床実習開始前のシミュレーション実習と臨床推論教育の充実を図った。また、臨床実習修了時の学生の臨床能力評価試験(PCC-OSCE)を本実施とした。 ○附属病院における口腔保健学科の臨床実習開始後に、本学独自の臨床能力評価試験(歯科衛生士版OSCE)を実施した。 ○歯学科と口腔保健学科の連携カリキュラム(合同講義)を増やした。 ○目標実績 ・学生の成績:平均GPA2.5(満点4)		B			2	
	(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)										
	【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)						
	【ウェイトの修正の有無】										
	年度評価	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容							
	24	評価	ウェイト	評価	ウェイト						
	25										
	26										
	27										
	28										
29											
				1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○歯学科においては、歯学教育モデル・コア・カリキュラム改訂版(H22年度)に準じて、臨床登院実習を中心にカリキュラムを充実させ、口腔保健学科については、1～4年次の完成年度(H25)以降、卒業生の就職状況を踏まえて、口腔保健学科カリキュラムの検証を行った。また、チーム医療の意識の醸成を目的とした歯学科と口腔保健学科の連携科目を開講し、口腔保健医療の総合大学としてアピールできるカリキュラムの編成が実施できてきている。 ○目標実績 ・学生の成績:平均GPA 2.3(H24)、2.3(H25)、2.3(H26)、2.5(H27)(満点4点) 【平成28、29年度の実施予定】 ○両学科とも、これまでのカリキュラム改編を検証し、さらに充実させるため、アウトカム基盤型教育への転換をめざす。		B			中期 ○	
(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)											
【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)							
【ウェイトの修正の有無】											
中期目標期間評価 (暫定評価を含む)	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容								
24～27年度(4年間)	評価	ウェイト	評価	ウェイト							
24～29年度(6年間)											

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号		
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度
	3【成績評価基準の明確化と厳格な評価の実施】 ①モデル・コア・カリキュラム改訂にあわせた各教科の到達目標と成績評価基準を授業要綱に明示する。 ②厳格な成績評価を行う。	3-1【平成27年度計画】 ○平成26年度に実施した授業要綱に関するアンケート調査等を分析し、記載事項を検証する。 ○これまでの成績開示、学生・保護者説明会の開催等引き続き実施していくとともに、成績不振者のフォローアップ調査を行い、評価の妥当性を検証する。		1	【平成27年度の実施状況】 ○授業要綱に関するアンケート調査を行うとともに、多面的に授業要項の記載事項を検証し、授業要綱をこれまでの紙媒体からオンライン化することが妥当であると判断し、そのシステムを構築した。 ○成績開示、学生・保護者説明会等を引き続き実施するとともに、成績不振者のフォローアップ調査を行い、成績評価の妥当性についてデータを集積し検証したところ、成績不振により留年を経験した学生の国家試験合格率が有意に低いことが明らかになり、次年度のアクションにつなげることができた。		B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		3	
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)		【自己評価の修正の有無】 (決定) (理由)		【ウェイトの修正の有無】		業務実績評価書の記載内容			
				1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○アンケート調査等の結果を踏まえ、授業要綱に達成目標と成績評価基準を明示した。 ○学生が作成した学習行動計画を年度毎に検証するシステムを構築した。また、成績表の保護者への送付と保護者説明会を継続的に開催し、学修方法などについて学生と保護者を交えて説明を行うなど、学習状況の改善を図るシステム作りが完成した。 【平成28、29年度の実施予定】 ○シラバス(授業要綱)の電子化について検証する。 ○成績不振者のフォローアップ調査を行い、継続的成績不振者については、担当教員による教育指導を学部教授会で組織的に対応する。		B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		中期 ○	
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)		【自己評価の修正の有無】 (決定) (理由)		【ウェイトの修正の有無】		業務実績評価書の記載内容			
		中期目標期間評価 (暫定評価を含む)		自己評価 評価 ウェイト	評価委員会 評価 ウェイト	業務実績評価書の記載内容					
		24～27年度(4年間)									
		24～29年度(6年間)									

項目	実施事項	平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																									
			中期	年度		中期	年度		中期	年度																								
4	【教育の成果・効果の検証】 ①歯学科は、共用試験Objective Structured Clinical Examination (OSCE)とComputer Based Testing (CBT)を教育効果という視点で活用する。 ②入学試験、定期試験、共用試験、国家試験の結果の相関を分析し、両学科とも国家試験の高い合格率の維持を目指すとともに、入学試験方法の改善を図る。 ③卒業試験に臨床実習試験制度を導入する。 ○達成目標 ・(歯学科)共用試験：共用試験合格率 100% ・(歯学科)国家試験合格率：全国29大学の中で常にトップクラスを目指す ・(口腔保健学科)国家試験合格率：歯科衛生士国家試験 100% (新卒受験者)	4-1	【平成27年度計画】 ○歯学科は、共用試験のデータを解析し、平成27年度のカリキュラム改編により4年次までの講義・実習の充実をはかる。 ・成績不振の学生に対しては、教員によるチューター制度を活用して不得意科目の克服を図るとともに、担当教員の指導方法を検証する。 ・国家試験合格者と卒業未認定者5名との成績比較を行い、この5名の今年度の教育プログラムを作成する。 ○入学試験結果と定期試験、共用試験、国家試験といった各試験結果との関連の分析(入学時の成績、定期試験の進級に伴う変化、定期試験と共用試験の相関、共用試験と国家試験との相関の分析)を継続し、分析結果を検証し、カリキュラム改編につなげる。 ○6年次後期の臨床実習終了時における臨床能力評価試験結果を4年次のOSCE結果と比較検証する。 ○卒業試験の試験問題を教務部会および教授会で組織的に検証し、卒業試験問題の質を向上させる。 ○達成目標 ・(歯学科)共用試験：共用試験合格率 100% ・(歯学科)国家試験合格率：全国29大学の中で5位以内を目指す ・(口腔保健学科)国家試験合格率：100%	1	【平成27年度の実施状況】 ○歯学科は、診査データをもとに疾患を推測し確定診断から治療方針に至る論理プロセスの能力向上が重要であることから、診断、治療、予防について、横断的に考える能力の養成が可能な科目編成を歯科医学教育センターで学部教授会に提案した。 ○歯学科においては、国家試験終了後、直ちに解答分析を行い、隔年で合格率が上下する現象について検討した。その結果、最低修業年限での合格率は、平成27年度までの5年間、常に全国5位以内であること、留年経験者の国家試験合格率が極めて低いことが明らかになった。そこで、留年経験者に対しては、学修効果を上げるために組織的対応が必要であると結論づけた。 ○教務データの科学的分析が必須となるため、新たにIR(Institutional Research)室を平成28年度に向けて設置することとした。これによって、入学試験結果と定期試験、共用試験、国家試験といった試験結果の関連を分析し、結果をFDなどを通じて全教員に周知し、全学的な学生教育体制の向上につなげることが可能となる。 ○共用試験CBTの合格基準を引き上げた。 ○新たに配置したクリニカルクラークシップ開発学担当教授主導で臨床実習終了時に学生の臨床能力評価試験(PCC-OSCE)を実施した。結果について、4年次のOSCE結果との比較を試みたが、実施形態や内容が異なるため単純な比較が困難であった。そこで、より有効な検証法を検討することとした。 ○卒業試験問題の検証を行い、卒業試験の質を向上させ、より質の高い卒業試験問題で卒業試験を実施した。 ・教務部会において、各科目責任者が作成した試験問題について、試験前後に詳細な検討を行ったが十分な成果が得られなかった。 ○目標実績 ・(歯学科)共用試験：共用試験合格率：CBT97%、OSCE 100% ・(歯学科)国家試験合格率：全国29大学の中で16位(新卒)、13位(総合) ・(口腔保健学科)国家試験合格率：100%	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.8「資格試験合格率、免許の取得」	4																										
<p>(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)</p> <p>【自己評価の修正の有無】 (決定) (理由)</p> <p>【ウェイトの修正の有無】</p> <p>業務実績評価書の記載内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>自己評価</th> <th>評価委員会</th> </tr> <tr> <th>評価</th> <th>ウェイト</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>24</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>25</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>26</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>27</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>28</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>29</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>											年度	自己評価	評価委員会	評価	ウェイト	評価	24			25			26			27			28			29		
年度	自己評価	評価委員会																																
評価	ウェイト	評価																																
24																																		
25																																		
26																																		
27																																		
28																																		
29																																		
			1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○歯学科は、診査データをもとに疾患を推測し確定診断から治療方針に至る論理プロセスに必要な知識が不足していることが分かり、診断、治療、予防について、横断的に考える能力の養成が可能な科目編成を進めてきた。適切なチューターを配置することにより、成績不振の学生の成績が向上したため、そこで行われた教育方法を教員間で共有した。 ○入学試験結果と定期試験、共用試験、国家試験といった試験結果の関連を分析し、全学的な学生教育体制の向上につなげるためIR室設置の検討を開始した。入学試験においては、平成27年度入試から総合的思考力や問題解決能力を重視した理科総合問題を新たに導入した。また、共用試験CBTの合格基準を平成27年度から引き上げた。 ○附属病院における学生実習を全般的に管理運営するために、クリニカルクラークシップ学教授を採用し、臨床実習終了時に学生の臨床能力向上を組織的に対応することとした。 ○目標実績 ・(歯学科)共用試験：共用試験合格率：CBT 98%(H24)、98%(H25)、99%(H26)、97%(H27) OSCE 100%(H24)、100%(H25)、100%(H26)、100%(H27) ・(歯学科)国家試験合格率：全国29大学中 (新卒) 2位(H24)、11位(H25)、4位(H26)、16位(H27) (既卒) 4位(H24)、12位(H25)、7位(H26)、13位(H27) ・(口腔保健学科)国家試験合格率：—(H24)、100%(H25)、100%(H26)、100%(H27) 【平成28、29年度の実施予定】 ○入学試験結果と定期試験、共用試験、国家試験といった各ステップの試験結果の関連を分析し、全学的な学生教育体制の向上につなげるためIR室を設置し、教職員を配置して分析を行うとともに、歯科医学教育センターと協働作業を行うべく。	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		中期 ○																											
<p>【自己評価の修正の有無】 (決定) (理由)</p> <p>【ウェイトの修正の有無】</p> <p>業務実績評価書の記載内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>中期目標期間評価 (暫定評価を含む)</th> <th>自己評価</th> <th>評価委員会</th> </tr> <tr> <th></th> <th>評価</th> <th>ウェイト</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>24～27年度(4年間)</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>24～29年度(6年間)</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>											中期目標期間評価 (暫定評価を含む)	自己評価	評価委員会		評価	ウェイト	24～27年度(4年間)			24～29年度(6年間)														
中期目標期間評価 (暫定評価を含む)	自己評価	評価委員会																																
	評価	ウェイト																																
24～27年度(4年間)																																		
24～29年度(6年間)																																		

中期計画		平成27年度計画		ウエイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号		
項目	実施事項	中期	年度	中期	年度		中期	年度		中期	年度	
2. 特色ある大学院教育による優れた教員・研究者の育成 1. 授業要綱の充実と改善 2. 大学院指導の客観的評価 3. 学位審査方法の検証	1. 【大学院教育組織の検証と適正な運用】 ①大学院カリキュラムを定期的に検証し、高度歯科医療人育成に向けて体系的な教育プログラムを構築する。 ②学位審査方法及び募集定員を検証し、質の高い教育・研究者の育成を目指す。 ③臨床系大学院指導の客観的評価法を検討する。 ○達成目標 ・学生の成績：平均GPA3以上	1-1	【平成27年度計画】 ○新たな歯学研究科大学院教育カリキュラムを体系化し、実践する。 ○継続して准教授・講師を学位審査の副査に登用する。 ○定数削減と定員充足率を継続して検証する。 ○大学院生からの意見も踏まえ、評価方法の妥当性を検証する。 ○達成目標 ・学生の成績：平均GPA3以上(満点4)		1	【平成27年度の実施状況】 ○大学自己評価部会が毎年実施するアンケート結果をもとに、教務部会でシラバス内容を検証し、学生がより講義・実習内容を理解しやすい様に次年度からシラバスを冊子からオンライン化して提供することとした。教務部会で検討した案件を歯学専攻教授および口腔保健学専攻教授で構成される歯学研究科委員会で審議し、ディプロマポリシーを改定し、新たなディプロマポリシーに基づいて、大学院教育カリキュラムを体系化した。 ○継続して准教授・講師を学位審査の副査に登用し、今年度は学位審査14件で准教授1件、講師が1件副査を務めた。 ○平成26年度から大学院博士課程の定数を25に変更したが、27年度は32名が入学し、大学院全体の充足率が80%以上となった。 ○大学院の評価結果を学生に通知した後に成績評価に対する不服申し立て期間を設け、3月の大学院研究科委員会で成績を承認した。 ○目標実績 ・学生の成績：平均GPA3.1		A	【高く評価する点】 ○学部教育・臨床研修に続き、シームレスな教育を展開することを重視し、大学院カリキュラムの徹底的な見直しを行った。特に、ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーを大幅に改正し、海外への発信が行えるような体制を構築した。 【実施(達成)できなかった点】			5
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)										
		【自己評価の修正の有無】				(決定)	(理由)					
		【ウエイトの修正の有無】										
		年度評価	自己評価 評価	ウエイト	評価委員会 評価	ウエイト	業務実績評価書の記載内容					
		24										
		25										
		26										
		27										
		28										
		29										
					1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○学位審査の専門性を向上するために、准教授・講師を学位審査の副査に登用した。 ○過去5年間の大学院博士課程の充足率が70%を下回ったことから、平成26年度から定数を30名から25名に変更した。 ○臨床系大学院生の臨床症例数および臨床研究の発表数を分野長が精査し、臨床症例数および臨床研究の発表数が妥当であることを検証した。 ○大学院の評価結果を学生に通知した後に成績評価に対する不服申し立て期間を設け、3月の大学院研究科委員会で成績を開始した。 ○平成27年度より科学研究に関する法令や各種指針、生命倫理や医療倫理の基本事項など大学院での研究を開始する上で、知っておかなければならない基本的知識の実際と理論について理解する「初年次研究研修プログラム」を必須科目として開講した。 ○文部科学省の「平成24年度大学間連携共同教育推進事業」に採択された「地域連携による『ものづくり』継承支援人材育成協働プロジェクト」に基づき、九州工業大学、北九州市立大学、産業医科大学との間で、単位互換協定を締結し、平成26年4月1日以降は選択科目として学生の受講が可能となった。 ○連携協定を締結している海外の歯科大学・歯学部より大学院生を2名受け入れ、英語による講義・実習を開講した。 ○大学院入試をより厳正なものにするために、専門試験の他に共通問題の内容を吟味し、さらに面接を3名の教員で行った。 ○大学院教員の資格要件を設定した。 ○口腔保健学科修士課程修了者(修士「口腔保健学」)を輩出した。 ○目標実績 ・学生の成績：平均GPA 3.1(H24)、2.9(H25)、3.1(H26)、3.1(H27) 【平成28、29年度の実施予定】 ○大学の基本理念と教育研究目標に基づき、3つのポリシーを改定し、新たなポリシーに基づいて、大学院組織さらに大学院教育カリキュラムを体系化する。 ○大学院入試をより厳正なものにするために、専門試験の他に共通問題の内容を吟味し、さらに面接を3名の教員で行う。 ○大学院教員の資格審査を実施する。 ○連携協定を締結している海外の歯科大学・歯学部より大学院生を積極的に受け入れ、英語による講義・実習を増やすとともに、本学の大学院生を海外の歯科大学・歯学部へ派遣する。 ○口腔保健学科修士課程修了者を歯学専攻博士課程に進学させる。 ○臨床系大学院指導の客観的評価法を検証する。		A	【高く評価する点】 ○平成26年度より九州工業大学、北九州市立大学、産業医科大学との間で、単位互換協定を締結した。 ○タイの連携校出身の2名が大学院に入学した。 【実施(達成)できなかった点】			中期 ○
(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)												
【自己評価の修正の有無】				(決定)	(理由)							
【ウエイトの修正の有無】												
		中期目標期間評価 (暫定評価を含む)	自己評価 評価	ウエイト	評価委員会 評価	ウエイト	業務実績評価書の記載内容					
		24～27年度(4年間)										
		24～29年度(6年間)										

項目	実施事項	平成27年度計画		ウエイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号						
		中期	年度	中期	年度		中期	年度		中期	年度					
2【歯科保健医療に貢献する教員・研究者の育成】 ①豊かな科学性と倫理性を備えた人材を育成するために口腔保健学科に大学院を設置する。 ○達成目標 ・口腔保健学科大学院の充足率:100%	2-1【平成27年度計画】 ○口腔保健学専攻(修士課程)の学生数を充足する。 ○口腔保健学専攻(修士課程)修了に係る認定を行う。 ○口腔保健学専攻(博士課程)の設置について最終判断する。 ○達成目標 ・口腔保健学科大学院の充足率:100%	1	【平成27年度の実施状況】 ○口腔保健学専攻(修士課程)の入学者数:4名(うち新卒者2名、社会人大学院生2名) 平成27年度受験者数:6名、合格者数:4名 ○口腔保健学専攻(修士課程)学位審査会(主査1名、副査2名)を3月7日(月)に実施し、1名の修了者を認定した。 ○口腔保健学専攻(修士課程)単位の博士課程を設置するだけの学生数が望めないとの判断を受け、修士課程から歯学専攻(博士課程)に進学できるよう、口腔健康学Ⅰ～Ⅲを設置し、修士修了者が進学できるような体制を整備した。 ○目標実績 ・口腔保健学科大学院の充足率:117%(7/6名)		A	【高く評価する点】 ○学生数の充足率が100%であった。 ○修了認定した学生は2年間で修了でき、論文の質も高かったことから適正な指導が行われたと評価できる。 ○修士課程から歯学専攻(博士課程)へ進学できる体制を整備できた。 【実施(達成)できなかった点】		6	(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)		【自己評価の修正の有無】 (決定) (理由)		【ウエイトの修正の有無】			
			業務実績評価書の記載内容													
			年度評価	自己評価		評価委員会										
				評価		ウエイト	評価		ウエイト							
			24													
			25													
			26													
			27													
			28													
			29													
2	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○平成26年度に口腔保健学専攻(修士課程)を設置し、平成26年度3名(新卒1名、社会人2名)、平成27年度4名(新卒2名、社会人2名)と、順調に学生を確保した。 ○新卒とともに社会人を受け入れており、これまで修士課程に進学することができなかった環境の者の就学機会を与えることができた。 ○完成年度である平成27年度に1名の修了者を認定した。 ○目標実績 ・口腔保健学科大学院の充足率: -(H24)、-(H25)、100%(H26)、100%(H27) 【平成28、29年度の実施予定】 ○引き続き口腔保健学専攻(修士課程)の学生数を充足する。 ○口腔保健学専攻(修士課程)修了に係る認定を行う。 ○博士課程を希望する学生の受入れ体制を確立する。	2	A	【高く評価する点】 ○学生数の充足率が初年度から2年連続100%であった。 ○初年度の新卒入学者が完成年度に修了でき、論文の質も高かったことから適正な指導を行うことができた。 ○修士課程から歯学専攻(博士課程)へ進学できる体制を整備できた。 【実施(達成)できなかった点】		中期 ○	(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)		【自己評価の修正の有無】 (決定) (理由)		【ウエイトの修正の有無】					
				業務実績評価書の記載内容												
				中期目標期間評価 (暫定評価を含む)	自己評価		評価委員会									
					評価		ウエイト	評価	ウエイト							
				24～27年度(4年間)												
				24～29年度(6年間)												

項目	中期計画 実施事項	平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ 番号	通し番号											
			中期	年度		中期	年度		中期	年度										
3【歯工学連携大学院の充実】 ①歯工学連携の充実を図り、大学院教育のカリキュラムを改編する。 ○達成目標 ・大学院連携による相互単位認定者：10名以上(年間) ・論文数：英文誌5件(年間) ・特許保有件数：1件(第2期中期計画期間を通して年間に保有する件数)	3-1【平成27年度計画】 ○歯工学連携大学院設置後から現在までの講義受講者数と単位認定の実績の評価に沿ってカリキュラムを改編する。 ○これまでの実績検証の結果に基づき、歯工学連携大学院に係る研究費配分額を決定する。 ○大学間連携共同教育推進事業で実施する単位互換科目の運用実績を検証する。 ○達成目標 ・大学院連携による相互単位認定者：10名以上(年間) ・論文数：英文誌5件(年間) ・特許保有件数：1件	3-1	2	年度	【平成27年度の実施状況】 ○4大学間で単位互換を伴う大学院生対象科目を10科目開講した(本学は4科目を開講)。 ○4大学間で単位互換認定を62名(本学7名、九工大11名、北九大41名、産業医大3名)に行った。他大学大学院生の本学開講科目の受講者数は35名(九工大10名、北九大22名、産業医大3名)であった。 ○大学間連携共同教育推進事業において、平成28年1月22日、23日に北九州国際会議場で4大学連携の基づいた国際会議「Interdisciplinary of Medical, Dental and Soft-material Researches on the move」を開催し、4大学の大学院生による55件の研究発表(本学14件、九工大10件、北九大21件、産業医大10件)を行った。研究内容については、4大学の教員による相互評価を行った。 ○大学間連携共同教育推進事業で実施する単位互換認定者数は、前年度と同数を維持しており、産業医大の大学院生も新たに単位互換認定対象者となったことから、単位互換科目の運用は順調に推移している。 ○これまでの実績検証の結果に基づき、学長重点枠から歯工学連携大学院の発展に寄与すると考えられる研究内容に研究費を充当した。 ○歯工学連携大学院設置後から現在までの講義受講者数と単位認定の実績の評価し、新たに2つの科目を設定したり、受講対象者を拡大した。 ○目標実績 ・大学院連携による相互単位認定者：62名、論文数：英文誌5件(年間) ・特許保有件数：1件	A	【高く評価する点】 ○4大学間の単位互換の実施及び国際シンポジウムの共催により、教員及び大学院生の学際領域の教育研究の推進に係る認識が高まった。特に、大学院生が海外からの著名な研究者の発表を聞くことができ、リサーチマインドの向上を図ることができた。 【実施(達成)できなかった点】	No.22「大学間連携」	7											
										(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)										
										【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)						
										【ウェイトの修正の有無】										
										年度	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容							
										評価	ウェイト	評価	ウェイト							
										24										
										25										
										26										
										27										
28																				
29																				
		1	年度	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○大学間連携共同事業においては、4大学間連携による大学院での特別講演会の実施、単位互換協定に基づく大学院科目の単位互換認定を行った。また、国際シンポジウムを共催し、4大学大学院生の研究発表を行った。 ○歯工学連携大学院設置後から現在までの講義受講者数と単位認定の実績の評価し、「臨床研究デザイン」などの新たな科目を設定したり、インターネットを活用した講義を開講することで受講を拡大した。 ○目標実績 ・大学院連携による相互単位認定者：9名(H24:2大学)、15名(H25:2大学)、62名(H26:4大学)、62名(H27:4大学) 論文数：英文誌 5件(H24)、5件(H25)、5件(H26)、5件(H27) ・特許保有件数：1件(H24)、1件(H25)、1件(H26)、1件(H27) 【平成28、29年度の実施予定】 ○大学間連携共同教育推進事業で実施してきた単位互換制度を継続するとともに、本学修士課程の大学院生を受講対象に加えるなど事業の充実を図る。また、教育研究に係るシンポジウムを開催し、大学院生の研究発表及び研究内容の評価を行う。 ○これまでに歯工学連携に関連する研究成果に基づき、実用化のための特許申請を積極的に行う。 ○九州工業大学、北九州市立大学、産業医科大学と4大学で新たな大型外部資金の獲得を目指す。	A	【高く評価する点】 ○歯工学連携による教育研究の推進で、大学院教育の充実と研究領域の拡大を図ることができた。 【実施(達成)できなかった点】	中期 ○													
								(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)												
								【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)								
								【ウェイトの修正の有無】												
								中期目標期間評価 (暫定評価を含む)	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容									
								評価	ウェイト	評価	ウェイト									
								24～27年度(4年間)												
								24～29年度(6年間)												

項目	実施事項	中期計画		ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																								
		中期	年度			中期	年度		中期	年度																																							
3. 教員の教育力の向上 1. 教育実施体制の検証・改善 2. 評価方法の検証・改善と適切な運用	1 【FDによる創造的授業開発の推進】 ①FD活動を充実させ、学部および大学院における教育活動の改善につなげる。 ②FD活動の有効性を検証する。 ○達成目標 ・FD参加率およびアンケート調査：参加率95%、平均4点以上(満点5)	1-1	【平成27年度計画】 ○副学長のもとに設置されたFD委員会では、教員の教育に対する意識向上を意識したFD活動を行う。 ・啓発のための講演会やワークショップを年間10回行う。 ・FD活動の内容に応じて、引き続き有効性を検証する。 ○達成目標 ・FD活動の教員の参加率：各回95%以上 ・アンケート調査：平均4点以上(満点5)	1	【平成27年度の実施状況】 ○学校教育法の見直しに伴い、従来のFDの実施に加え、大学ガバナンス等に関する研修もFD・SDとして開催した。 ○主に教育改善等に係る教員向けのFDを10回開催し、教職員全般を対象とするFD・SDを12回開催した。 ○FDとしては、歯科医学教育センターの設置の意義とアウトカム基盤型教育への取組、医療者教育の質保証、入試面接における評価のあり方、情報セキュリティ対策等について、学内講師や学外講師による講演やワークショップを開催した。 ○本学では、歯科医学教育センターを設置し、アウトカム基盤型教育への転換を図り、歯科医療人教育の質保証を推進していること、また、優れた歯科医療人を養成確保する観点から入試面接のさらなる改善を行う必要があり、FDを通じて教員の認識を高めることができた。また、サイバー攻撃に対するセキュリティ対策についても理解を深めることができた。 ○FD・SDとしては、医療機関としての本学附属病院の役割、医療安全講習会、適正な保険診療の実施等に関する講演、理事長による理事会審議内容の報告等を行い、本学附属病院の責務や大学運営のあり方に対する教職員の認識を高めることができた。 ○目標実績 ・FD活動の教員の参加率：平均89% ・アンケート調査評価結果：平均4.4点(満点5)	A	【高く評価する点】 ○学校教育法改正を踏まえたFD拡充により、大学ガバナンス等についても教員の認識を高める体制が構築できた。特に、責任者を学部長から副学長としたことで、大学としての仕組みの中での運用が可能となった。 【実施(達成)できなかった点】	No.10「FD」	8																																								
		<p>(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)</p> <p>【自己評価の修正の有無】 (決定) (理由)</p> <p>【ウエイトの修正の有無】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">自己評価</th> <th colspan="2">評価委員会</th> </tr> <tr> <th>評価</th> <th>ウエイト</th> <th>評価</th> <th>ウエイト</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>24</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>25</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>26</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>27</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>28</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>29</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>業務実績評価書の記載内容</p>											年度	自己評価		評価委員会		評価	ウエイト	評価	ウエイト	24					25					26					27					28					29		
年度	自己評価		評価委員会																																														
	評価	ウエイト	評価	ウエイト																																													
24																																																	
25																																																	
26																																																	
27																																																	
28																																																	
29																																																	
			【平成24～27年度の実施状況概略】 ○本学における初年次教育、入学試験・国家試験結果の解析報告、アウトカム基盤型教育、医療者教育の質保証等の教育改革につながるテーマを設定し、年間10回以上開催し、教員の意識向上に努めてきた。 ○平成27年度は、大学ガバナンス等に係る研修についても、FD・SDとして開催し、教職員の認識を高めた。 ○目標実績 ・FD活動の教員の参加率：平均 96%(H24)、95%(H25)、80%(H26)、89%(H27) ・アンケート調査評価結果：平均 4.1点(H24)、4.1点(H25)、4.2点(H26)、4.4点(H27) (満点5)	1	【平成28、29年度の実施予定】 ○教員を対象とする教育改善に係るテーマをFDとして年間10回以上開催する。また、教職員を対象とする大学ガバナンス等に係る研修についても引き続き実施する。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		中期 ○																																								
<p>(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)</p> <p>【自己評価の修正の有無】 (決定) (理由)</p> <p>【ウエイトの修正の有無】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">中期目標期間評価 (暫定評価を含む)</th> <th colspan="2">自己評価</th> <th colspan="2">評価委員会</th> </tr> <tr> <th>評価</th> <th>ウエイト</th> <th>評価</th> <th>ウエイト</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>24～27年度(4年間)</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>24～29年度(6年間)</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>業務実績評価書の記載内容</p>											中期目標期間評価 (暫定評価を含む)	自己評価		評価委員会		評価	ウエイト	評価	ウエイト	24～27年度(4年間)					24～29年度(6年間)																								
中期目標期間評価 (暫定評価を含む)	自己評価		評価委員会																																														
	評価	ウエイト	評価	ウエイト																																													
24～27年度(4年間)																																																	
24～29年度(6年間)																																																	

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号										
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度								
	2【教育力向上のための教育力評価システムの開発】 ①教員の授業力向上のために、授業評価や個人業績評価データを活用し、年次推移などを踏まえた分析を行い、講義だけでなく臨床実習も含めた形で、教員の教育力を多面的に評価できるシステムの開発を目指す。 ②学生の授業評価、同僚による授業評価等の結果を教員にフィードバックし、授業改善に役立てる。 ③教員に対して、組織的に教育活動の改善を求める。	2-1【平成27年度計画】 ○授業評価や個人業績評価データをもとにした教員の教育力を多面的に評価し、そのデータを分析する。 ○学生の授業評価、同僚による授業評価等の結果を教員に適切に通知し、授業改善を促すことによる効果を引き続き検証する。 ○授業評価や個人業績評価データをもとに、教員に対して教育活動の改善を求めたことによる成果を引き続き検証するとともに、優れた教員を顕彰する。	1	【平成27年度の実施状況】 ○各教員の自己評価実績報告書等に基づき、分野長、学部長、学長による評価を順次行い、個人業績評価委員会の審議を経て、6区分(S、A～E)で最終評価を行った。最終評価及び教育活動を含む各項目の評価結果については、各教員に対しフィードバックを行った。 ○最終評価がC以下となった教員に対しては、学部長、分野長による面談を行い、意見聴取を行った。面談結果については、学部長から個人業績評価委員会に報告され、教育活動の改善に向けた検討を行った。 ○学生による授業評価及び同僚による授業評価等の結果を教員に通知し、授業改善を促した。 ○学生による授業評価、同僚による授業評価及び前年度の個人業績評価の最終評価に基づき、優れた教育を実践する教員を顕彰する制度を構築し、平成27年度から適用することとした。 ○分野長、学部長、学長による多面的評価の実施、フィードバックシステムの構築と低評価者に対する面談の実施により、教育活動の改善に対する教員全般の認識が高まり、経年的に評価結果は改善している。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.9「学生による授業評価」	9											
									(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)										
									【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)						
									【ウェイトの修正の有無】										
									年度評価	自己評価 評価	ウェイト	評価委員会 評価	ウェイト	業務実績評価書の記載内容					
									24										
									25										
									26										
									27										
									28										
29																			
		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○第1期中期計画中に行ってきた相対評価を改め、各教員が提出した自己評価実績報告書等に基づき、分野長、学部長、学長による多面的な評価を行うシステムを構築した。 ○教員への教育活動を含む最終評価結果のフィードバック、評価の低い教員への面談を実施することにより、教員の教育改善に対する認識が高まり、経年的に最終評価は改善してきた。 ○学生による授業評価、同僚による授業評価を実施し、授業改善を促すとともに、優れた教育を実践する教員の顕彰制度を構築した。 【平成28、29年度の実施予定】 ○平成27年度までに構築した教員の個人業績評価方式、フィードバックシステム、低評価者に対する面談を引き続き実施し、教育活動のさらなる改善を図る。 ○学生による授業評価、同僚による授業評価を行い、引き続き授業改善を促すとともに、学長がベストティーチャー賞を設定し、優れた教育を実践する教員を顕彰する。	1	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	中期 ○													
							(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)												
							【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)								
							【ウェイトの修正の有無】												
							中期目標期間評価 (暫定評価を含む)	自己評価 評価	ウェイト	評価委員会 評価	ウェイト	業務実績評価書の記載内容							
							24～27年度(4年間)												
							24～29年度(6年間)												

項目	実施事項	平成27年度計画		ウエイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
		中期	年度	中期	年度		中期	年度		中期	年度
2	【広報活動の実施】 ①オープンキャンパス、高校訪問、大学入試説明会のデータを分析し、実効的な活動を展開する。 ○達成目標 ・オープンキャンパス、高校訪問および大学入試説明会実績値 オープンキャンパス参加者数 250人 高校訪問数 110校 大学入試説明会参加数 15回 ・オープンキャンパス、高校訪問および大学入試説明会の参加者に対するアンケート調査: オープンキャンパス 評価4以上 80% 高校訪問 良好評価 60%以上 入試説明会 良好評価 60%以上 ・志願者数(志願倍率): (歯学科) 志願者数(志願倍率) 350人以上(4.5倍) (口腔保健学科) 志願者数(志願倍率) 60人(2.7倍)	2-1	【平成27年度計画】 ○オープンキャンパスのさらなる充実を図るために、これまでの実績を検証するとともに、高校教諭向けの施設見学会も合わせて実施することを検討する。 ・オープンキャンパスで回収したアンケート調査分析結果をプログラム内容に反映させる。 ○高校訪問及び大学入試説明会を中心として様々な方法で広報活動を充実する。 ・出張講座、高校訪問、入試説明会を積極的に活用し、そこでのアンケートを分析するとともに、DVD等の視覚素材を利用する等、改善を図る。 ・ホームページ更新の頻度を増やし、受験生をターゲットにした情報発信の充実を図る。 ・高大連携活動等を通じて、高校教諭との意見交換を積極的に行う。 ○達成目標 ・オープンキャンパス、高校訪問および大学入試説明会: オープンキャンパス参加者数 250人 高校訪問数 110校 大学入試説明会参加数 15回 ・オープンキャンパス、高校訪問および大学入試説明会の参加者に対するアンケート調査: オープンキャンパス評価4以上 80% 高校訪問良好評価 60%以上 入試説明会良好評価 60%以上 ・志願者数(志願倍率): (歯学科) 志願者数(志願倍率) 350人(4.5倍) (口腔保健学科) 志願者数(志願倍率) 60人(2.7倍)	1	【平成27年度の実施状況】 ○オープンキャンパスのアンケート結果を検証し、病院見学などの内容を充実させた。また、高校教諭向けの施設見学会を合わせて実施した。 ○出張講座、高校訪問、入試説明会をさらに積極的に行い、そこでのアンケートを分析し、内容を充実させた。また、ホームページ更新の頻度を増やし、受験生をターゲットにした情報発信の充実を図った。 ○SSH(小倉高校)やSGH(明治学園)などのプログラムに積極的に協力し、高大連携活動を通じて、高校教諭との意見交換を積極的に行うことができた。 ○目標実績 ・オープンキャンパス、高校訪問および大学入試説明会: オープンキャンパス参加者数 466人 高校訪問数 126校 大学入試説明会参加数 15回 ・オープンキャンパス、高校訪問および大学入試説明会の参加者に対するアンケート調査: オープンキャンパス評価4以上 99% 高校訪問良好評価 98% 入試説明会良好評価 100% ・志願者数(志願倍率): (歯学科) 志願者数(志願倍率) 414人(5.3倍) (口腔保健学科) 志願者数(志願倍率) 60人(2.7倍)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.1「入学者選抜試験」 No.3「高校訪問」 No.4「入試説明会」 No.5「出前講座」 No.6「オープンキャンパス」	11		
(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)											
【自己評価の修正の有無】				(決定)	(理由)						
【ウエイトの修正の有無】											
業務実績評価書の記載内容											
年度	自己評価	評価委員会									
評価	ウエイト	評価	ウエイト								
24											
25											
26											
27											
28											
29											
				1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○オープンキャンパス オープンキャンパスのアンケート結果を分析し、平成24年度より本学の歯科医学教育の特徴をアピールするという観点で改善を図ってきた。その結果、模擬実習などをさらに充実させたところ、アンケートでは総じて高い評価が得られ、年を追うごとに来場者数が増え、「4」以上の評価がほぼ100%を達成することができ、十分な実績を上げることができた。 ○高校訪問を中心とした広報活動 平成24年度より出張講座、高校訪問を実施した高校や入試説明会に参加した受験生のデータから受験生の動向を分析し、訪問先高校の見直しや予備校訪問の実施を増やすなど効率的な広報活動を展開してきた。また、平成26年度に大学ホームページを大幅に更新し、新しいホームページにおいてオープンキャンパスの開催情報やオンラインでの参加受付など受験生向けの情報を発信した。さらに、平成27年度より、高校教諭対象の大学説明会を開催し、意見交換を行った。また、平成26年度に本学百周年記念事業の一環として作成された大学案内のプロモーションビデオを大学案内等に積極的に活用している。 ○目標実績 ・オープンキャンパス、高校訪問および大学入試説明会: オープンキャンパス参加者数 409人(H24)、409人(H25)、431人(H26)、466人(H27) 高校訪問数 121校(H24)、119校(H25)、128校(H26)、126校(H27) 大学入試説明会参加数 22回(H24)、16回(H25)、15回(H26)、15回(H27) ・オープンキャンパス、高校訪問および大学入試説明会の参加者に対するアンケート調査: オープンキャンパス評価4以上 96%(H24)、97%(H25)、100%(H26)、99%(H27) 高校訪問良好評価 概ね良好(H24)、90%(H25)、100%(H26)、98%(H27) 入試説明会良好評価 概ね良好(H24)、95%(H25)、100%(H26)、100%(H27) ・志願者数(志願倍率): (歯学科) 志願者数(志願倍率) 436人(5.6倍)(H24)、418人(5.4倍)(H25)、436人(5.6倍)(H26)、414人(5.3倍)(H27) (口腔保健学科) 志願者数(志願倍率) 72人(3.3倍)(H24)、62人(2.8倍)(H25)、39人(1.8倍)(H26)、60人(2.7倍)(H27) 【平成28、29年度の実施予定】 ○オープンキャンパスのさらなる充実を図るため、実施日や実施時期などについて検討する。 ○高校訪問によって受験生の進学先選択に影響があったかどうかについて、新入生に対して調査を行う予定である。あわせて、高大連携という視点で北九州市内の高等学校との連携を深める。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		中期 ○		
(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)											
【自己評価の修正の有無】				(決定)	(理由)						
【ウエイトの修正の有無】											
業務実績評価書の記載内容											
中期目標期間評価	自己評価	評価委員会									
(暫定評価を含む)	評価	ウエイト	評価	ウエイト							
24～27年度(4年間)											
24～29年度(6年間)											

中期計画		平成27年度計画		ウエイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号			
項目	実施事項	中期	年度	中期	年度		中期	年度		中期	年度		
3【高大連携の実施】	<p>①高校との連携を深め、組織的に模擬講義を企画運営する。</p> <p>②高校の進路指導教諭を対象とした大学施設見学会の実施等を行う。</p> <p>○達成目標</p> <p>・模擬講座実施回数、参加学生数、参加者アンケート: 実施回数 6回 参加学生数 80人 良好評価 60%以上</p> <p>・大学施設見学会実施回数、参加教諭数、参加者アンケート: 実施回数 1回 参加教諭数 20人 良好評価 60%以上</p>	3-1	【平成27年度計画】	1	1	<p>【平成27年度の実施状況】</p> <p>○高校での模擬講義において平成26年度の良好評価は88%であり、内容が専門的すぎる等の意見も見られた。その結果を踏まえて、講演を行う教員に模擬講義の趣旨を周知徹底し、講義内容の改善を求めたところ、平成27年度においては良好評価が95%となった。</p> <p>○高校の進路指導教諭を対象とした大学施設見学会をオープンキャンパス開催時に実施した。活発な質疑応答や施設見学会を通じて、歯学部教育と歯科医療界の実態を理解してもらうことができ、優秀な受験生の確保につながる取組みと判断した。</p> <p>○明治学園中学高等学校において、昨年度に続き、高校1年生を対象として、「歯科疫学実習」の授業を全20回提供した。疫学研究、データ解析の学習を通じて、学生の批判的思考能力の向上につながったとの評価を得た。</p> <p>○広報活動の充実に向けて作成した大学紹介ビデオを、大学説明という観点で活用した。</p> <p>○目標実績</p> <p>・模擬講座 実施回数 5回 参加学生数 507人 アンケート良好評価 96% 参加教諭数 10人</p> <p>・大学施設見学会 実施回数 1回 参加教諭数 3人 アンケート良好評価 88%</p>	B	【高く評価する点】	No.5「出前講座」	12			
		<p>(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)</p>											
		【自己評価の修正の有無】				(決定)	(理由)						
		【ウエイトの修正の有無】											
		年度評価	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容								
		24	評価	ウエイト	評価	ウエイト							
		25											
		26											
		27											
		28											
29													
				1	1	<p>【平成24～27年度の実施状況概略】</p> <p>○高校での模擬講義を実施するとともに、そこで得られた評価結果を検証し、さなる充実を図ってきた。</p> <p>○高校の進路指導教諭を対象とした大学施設見学会を実施するとともに、その効果について評価し、オープンキャンパスとの併催などニーズに応じた対応を行ってきた。</p> <p>○目標実績</p> <p>・模擬講座 実施回数 5回(H24)、9回(H25)、5回(H26)、5回(H27) 参加学生数 130人(H24)、484人(H25)、178人(H26)、507人(H27) アンケート良好評価 99%(H24)、86%(H25)、91%(H26)、96%(H27)</p> <p>・大学施設見学会 実施回数 1回(H24)、1回(H25)、1回(H26)、1回(H27) 参加教諭数 3人(H24)、11人(H25)、14人(H26)、3人(H27) アンケート良好評価 100%(H24)、100%(H25)、100%(H26)、88%(H27)</p> <p>【平成28、29年度の実施予定】</p> <p>○模擬講義や大学施設見学会、高大連携などの取り組みをさらに充実させる予定である。</p>	B	【高く評価する点】		中期			
<p>(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)</p>													
【自己評価の修正の有無】				(決定)	(理由)								
【ウエイトの修正の有無】													
中期目標期間評価	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容										
(暫定評価を含む)	評価	ウエイト	評価	ウエイト									
24～27年度(4年間)													
24～29年度(6年間)													

項目	実施事項	平成27年度計画		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号						
		中期	年度		中期	年度		中期	年度					
5. 学生への支援 1. 学生のニーズや社会状況の変化に対応した学生支援の実施 2. 教員、職員が連携したきめ細かな学生支援の実施	【学生相談・助言・支援の組織的対応】 ①学生相談業務を充実し、支援体制の拡充を図り、きめ細かな学生支援を実施する。 ②学年主任会議、学生対策指導会議などを通して連携を強化し、教職員が一体となって問題案件の解決を図る。 ③保護者説明会を開催し、成績不振学生への修学指導を行う。 ○達成目標 ・学生支援に関するアンケート調査: 評価4以上(満点5) ・保護者説明会に関するアンケート調査: 評価4以上(満点5)	1-1	【平成27年度計画】 ○学生相談について、引き続き利用しやすい環境作りに努める。 ・学生に対して行っている学生支援に関するアンケート調査を分析し、改善策を講じる。 ○学長賞については、学生の意見を聴取するなどして、その妥当性を検証する。 ○キャンパスライフ・ガイダンスの充実を図り、学生に修学指針を周知徹底するとともに、学生の意見を聴取して実態を把握する。 ○保護者説明会を開催するとともに、保護者に対して大学の「学生指導」に関するアンケート調査を継続する。	1	【平成27年度の実施状況】 ○学生に対する学生支援に関するアンケート調査および学生からの要望を聞き取るため投書箱を設置し、調査結果から得られた要望内容について検討を行い、自習室の拡充など実施可能なものについてはいち早く対応を行った。 ○「学長賞」の表彰事業を継続して行った。 ・秀でた活動を行った個人およびクラブのみならず、学業成績優秀者について、歯学科3年次生、5年次生、6年次生、口腔保健学科3年次生、4年次生を表彰対象として表彰し、学修意欲の向上を図った。下記に示すキャンパスライフ・ガイダンスにおいて、本事業に関する意見聴取を行うなど啓発に努めた。 ○キャンパスライフ・ガイダンスを実施した。 ・各学年において年度内に4回程度実施し、学生に修学指針を周知徹底するとともに、心身の健康管理に関する知識の普及を行った。その結果、健康管理室やカウンセリング室の学生利用者は増加傾向にある。 ・学生の意見聴取により、自習室の利用時間拡大など学修環境の改善を行った。 ○保護者説明会を開催するとともに、同説明会において保護者に対して大学の「学生指導」に関するアンケート調査を実施した。 ○目標実績 ・学生支援に関するアンケート調査: 評価3.6(満点5) ・学生指導に関するアンケート調査: 評価4.3(満点5)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.7「学生の満足度調査」 No.16「課外活動の状況」	13					
			(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)											
			【自己評価の修正の有無】				(決定)			(理由)				
			【ウエイトの修正の有無】											
			年度評価	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容								
			24	評価	ウエイト	評価	ウエイト							
			25											
			26											
			27											
			28											
29														
			1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○学年主任会議、学生対策指導会議を定期的で開催し、教員と職員の連携を強化し、教職員が一体となって問題案件の解決を図った。 ○平成24年度より、学生が相談しやすい環境を作るために、学生に対する学生支援に関するアンケート調査および学生からの要望を聞き取るため投書箱を設置した。また、平成26年度より新たに「学長賞」の表彰事業を創設した。 ○キャンパスライフ・ガイダンス(発足当時の名称: カレッジライフ・ガイダンス)と呼ばれるプログラムをスタートさせた。各学年において年度内に4回程度実施し、学生に修学指針を周知徹底するとともに、心身の健康管理に関する知識の普及を行った。 ○保護者説明会を開催し、成績不振学生への修学指導を行うとともに、同説明会において保護者に対して大学の「学生指導」に関するアンケートを調査を実施した。 ○目標実績 ・学生支援に関するアンケート調査: 評価 3.0(H24)、3.0(H25)、3.6(H26)、3.6(H27) (満点5) ・学生指導に関するアンケート調査: 評価 概ね良好(H24)、概ね良好(H25)、概ね良好(H26)、4.3(H27)(満点5) 【平成28、29年度の実施予定】 ○学生からのアンケート調査をもとに、キャンパスライフガイダンスや学長賞の制度改善や、さらなる充実を図る。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	中期 ○							
(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)														
【自己評価の修正の有無】				(決定)	(理由)									
【ウエイトの修正の有無】														
中期目標期間評価 (暫定評価を含む)	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容											
24～27年度(4年間)	評価	ウエイト	評価	ウエイト										
24～29年度(6年間)														

中期計画		平成27年度計画	ウエイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号			
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度	
	2【就職支援の充実】 ①就職支援体制を整備し、入学時からキャリアデザインを支援する取り組みを行う。 ②口腔保健学科では、歯科衛生士としての位置付けにとどまらず、口腔保健活動の新たな担い手として就労できるように幅広い就職先を開拓する。 ③学生に対し、就職情報獲得のためのセミナーを開催し、就職支援を推進する。 ○達成目標 ・(歯学科) 歯科医師臨床研修マッチング率:100% ・(口腔保健学科) 就職率:100% ・訪問先の企業・病院・施設でのアンケート調査: 良好評価60%以上	2-1	【平成27年度計画】 ○就職支援に係る運用のシステム化を図る。 ・入学時からキャリアデザインを支援する取組を検証する。 ・歯学科は4年次の宿泊学修(WADS CAMP)にてキャリアデザインの講義やグループワークを行う。 ・求人情報の閲覧システム及び就職支援システムの運用状況を検証する。 ・口腔保健学科生を対象とした「キャリアガイダンス」、就職支援面談及びセミナーのさらなる充実を図る。 ○継続して新たな就職先を開拓する。 ○達成目標 ・(歯学科) 歯科医師臨床研修マッチング率:100% ・(口腔保健学科) 就職率:100%		1	【平成27年度の実施状況】 ○就職支援に係る運用のシステム化を図った。 ・入学直後の1年次宿泊学修(WADSキャンプ)にてキャリアデザインを意識したプログラムを実施し、修了後に提出させたレポートにおいて良好評価を得た。 ・歯学科は4年次の宿泊学修(WADSキャンプ)においても、キャリアデザインの講義やグループワークを行い、修了後に提出させたレポートにおいて良好評価を得た。 ・「就職支援会議」の指示のもと、個別事例に対処する「就職支援実施会議」の活用による組織的就職支援体制をとり、今年度も就職率100%を達成できた。 ・教職員の就職支援体制として、「キャリアカウンセラー資格」の取得支援を引き続き行った。 ・「求人者」、「求職者」情報のデータベース化に取り組み、求人情報の閲覧システムおよび就職支援全般においてITを活用したシステム運用を行った。求人情報は100件を超え学生の8割以上がこのシステムを使用して就職情報を得ている。 ・口腔保健学科生を対象とした「キャリアガイダンス」を開催するとともに、就職支援のためのセミナーを頻繁に実施し、充実を図った。 ○就職先となり得る介護保健施設に関連した企業との連携による寄附講座を開設した。 ○目標実績 ・歯科医師臨床研修マッチング率:100% ・(口腔保健学科) 就職率:100%			【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.18「就職状況」		14
(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)												
【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)								
【ウエイトの修正の有無】												
年度 評価	自己評価 評価	ウエイト	評価委員会 評価	ウエイト	業務実績評価書の記載内容							
24												
25												
26												
27												
28												
29												
				1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○平成24年度より、就職支援体制を整備し、入学時からキャリアデザインを支援する取り組みを行ってきた。歯学科では、4年次に宿泊学修(WADSキャンプ)にてキャリアデザインのセミナーやグループワークを実施してきた。口腔保健学科では、歯科衛生士としての位置付けにとどまらず、幅広い就職先を開拓すべく、組織化した就職支援活動を展開した。その結果、口腔保健学科では病院や一般企業なども含め毎年就職率100%を達成することができた。 ○目標実績 ・歯科医師臨床研修マッチング率: 100%(H24)、100%(H25)、100%(H26)、100%(H27) ・(口腔保健学科) 就職率: (H24)、100%(H25)、100%(H26)、100%(H27) 【平成28、29年度の実施予定】 ○さらなる就職支援の充実を図るため、卒業生にアンケート調査等を実施し、その結果を制度改善に役立てる予定である。			【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		中期 ○		
(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)												
【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)								
【ウエイトの修正の有無】												
中期目標期間評価 (暫定評価を含む)	自己評価 評価	ウエイト	評価委員会 評価	ウエイト	業務実績評価書の記載内容							
24～27年度(4年間)												
24～29年度(6年間)												

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期
	3【経済的支援の充実】 ①図書館やTA等により、学内で学生・大学院生を臨時的に雇用するなど、経済的支援を充実させる。 ②授業料の減免・分納制度や奨学金情報の周知徹底を図る。 ○達成目標 ・TA制度の認知度:100% ・学生支援機構以外の奨学金の認知度:100%	3-1【平成27年度計画】 ○経済支援の機会を提供する場を拡大する。 ・図書館業務、学内行事等において学生・大学院生を臨時的に雇用する枠の拡大を検討する。 ○学生・大学院生の臨時的雇用について、当該業務担当職員から、活動状況について学生に対する調査を実施し、雇用の改善につとめる。 ○学生への経済支援に係る情報の収集・提供を行う。 ・県内外の自治体及び民間団体の奨学金制度情報の速やかな把握と学生・大学院生への適宜の情報提供を実施する。 ○達成目標 ・TA制度の認知度:100% ・学生支援機構以外の奨学金の認知度:100%		1	【平成27年度の実施状況】 ○経済支援の機会を拡大した。図書館業務、学内行事等において学生・大学院生を臨時的に雇用する人数や学内行事等を増やして枠の拡大を図った。 ○臨時的雇用の状況について、キャンパスライフガイダンス等を利用して意見聴取を行った。 ○学生への経済支援に係る情報の収集・提供を行った。県内外の自治体及び民間団体の奨学金制度情報の把握に努め、学部学生及び大学院生に対してキャンパスライフガイダンスを利用して、継続的に情報提供を実施した。 ○目標実績 ・TA制度の認知度:100% ・学生支援機構以外の奨学金の認知度:100%		B			15
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)								
		【自己評価の修正の有無】		(決定)	(理由)					
		【ウェイトの修正の有無】								
		年度評価		自己評価		評価委員会		業務実績評価書の記載内容		
		評価		評価		評価				
		ウェイト		ウェイト		ウェイト				
		24								
		25								
		26								
		27								
		28								
		29								
				1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○平成24年度から経済支援の場を拡大するため、図書館業務、学内行事等において学生・大学院生を臨時的に雇用する枠の拡大を行ってきた。 ○学生・大学院生の臨時的雇用について、当該業務担当職員から、活動状況について学生に対する調査を実施し、雇用状況の改善につとめてきた。 ○学生への経済支援に係る情報の収集・提供を積極的に起こない、授業料の減免制度や県内外の自治体及び民間団体の奨学金制度情報の速やかな把握と学生・大学院生への適宜の情報提供を行ってきた。 ○目標実績 ・TA制度の認知度: - (H24)、100% (H25)、100% (H26)、100% (H27) ・学生支援機構以外の奨学金の認知度: - (H24)、100% (H25)、100% (H26)、100% (H27) 【平成28、29年度の実施予定】 ○奨学金等の情報提供のタイムラグを減らすため、奨学金情報の電子化(学内向けホームページ掲載)などについて検討を行う予定である。		B			中期 ○
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)								
		【自己評価の修正の有無】		(決定)	(理由)					
		【ウェイトの修正の有無】								
		中期目標期間評価 (暫定評価を含む)		自己評価		評価委員会		業務実績評価書の記載内容		
		評価		評価		評価				
		ウェイト		ウェイト		ウェイト				
		24～27年度(4年間)								
		24～29年度(6年間)								
		ウェイト総計		中期	27年度			項目数計		中期 15
				17	17					15

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

「1-1-1-1」第2期中期計画実施期内で、初年次教育の改編が順調に進み、いよいよ本年度から、知識・技術・情意教育をバランス良く配置した初年次教育カリキュラムをスタートさせることとした。
「1-2-3-1」単科大学における歯学と工学の大学院連携は日本で初めての試みであり、この取組を医歯工連携に発展させることにより、本学のPRや質の高い研究者の育成、ひいてはブランドイメージの向上につなげていく。

【ウェイト付けの理由】(中期計画)

「1-1-1-1」学長の方バナンスの強化に努め、歯科医学教育センターを活用して学部教育の再編を組織的に行うこととした。
「1-2-2-1」口腔保健学に修士課程を設置し、多彩な人材を育成し、この領域の学問的位置付けを高めるために、改革を進めていくこととした。

教育に関する特記事項(平成27年度)

教育に関する特記事項(平成24年度～平成27年度)

(評価委員会)
【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)

【意見・コメント等】

教育に関する特記事項の業務実績評価書(平成24年度～平成27年度)の記載内容

項目別の状況(年度計画項目・中期計画項目)

中期目標 2. 研究	「大学の特色ある教育や地域社会の発展に役立つ研究を推進する。」 国内外の大学や試験研究機関との共同研究、企業、行政機関等との連携を通じ、大学の特色ある教育や地域の歯科保健医療の発展に有用な研究を重点的に推進する。 研究成果については、積極的に公表し、社会に還元する。
---------------	---

項目	実施事項	平成27年度計画	ウエイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号		
			中期	年度		中期	年度		中期	年度	
1. 研究水準並びに研究成果の向上 1. 全学的研究事業の展開 2. 研究成果の公表	1【適正な研究者の配置及び研究費の配分】 ①大学として特色ある研究、地域社会の発展に役立つ研究を推進するため、教員の研究業績を評価分析し、各分野における教員配置の適正化を図る。 ②大学に貢献する研究に対し、研究費を重点配分する。 ○達成目標 ・研究成果に応じて配分する学長配分研究費の割合：40%	1-1【平成27年度計画】 ○分野ごとに研究業績の評価方法を検証し、教員を適正に配置する議論を開始する。 ○大学の理念に沿った学長配分研究費の重点配分の方法を継続するとともに、確立した検証方法の検証を行う。 ○達成目標 ・研究成果に応じて配分する学長配分研究費の割合：40%		1	【平成27年度の実施状況】 ○個人業績評価部会で評価項目を見直し、項目の削除や追加、また点数の適正化を行った。これに基づいて分野毎の業績評価を行い、教員を適正に配置する方法を確立した。なお、平成27年度の配分について、委員会で検証したところ、特に適正を欠くとみなされる教員はいなかった。 ○昨年同様に学長重点枠で、中期計画の達成に資する「問題解決型」「FS研究」「歯工学連携」の3つの分野の研究を展開することを決め、研究費を配分した。 ○目標実績 ・研究成果に応じて配分する学長配分研究費の割合：40%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】			16	
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項) 【自己評価の修正の有無】 (決定) (理由) 【ウエイトの修正の有無】									
		年度評価 自己評価 評価委員会 評価 ウェイト 評価 ウェイト 業務実績評価書の記載内容 24 25 26 27 28 29									
		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○個人業績評価部会で評価項目を見直し、項目の削除や追加、また点数の適正化を行い、これに基づいて分野毎の業績評価を行った。 ○学長重点枠は、中期計画の達成に資する「問題解決型」「FS研究」「歯工学連携」の3つの分野の研究を展開し、研究費を配分した。 ○目標実績 ・研究成果に応じて配分する学長配分研究費の割合：40%(H24)、40%(H25)、40%(H26)、40%(H27) 【平成28、29年度の実施予定】 ○新たな評価項目を検証し、必要に応じて項目の削除や追加、また点数の適正化を行い、これに基づいて分野毎の業績評価を行うとともに教員配置を検討する。 ○学長重点枠で進められた研究成果をもとに大型の外部資金獲得を目指す。									
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項) 【自己評価の修正の有無】 (決定) (理由) 【ウエイトの修正の有無】									
		中期目標期間評価 (暫定評価を含む) 自己評価 評価委員会 評価 ウェイト 評価 ウェイト 業務実績評価書の記載内容 24～27年度(4年間) 24～29年度(6年間)									
		中期 ○									

中期計画		平成27年度計画		ウエイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項	中期	年度	中期	年度		中期	年度		中期	年度
	2【研究の事後評価システムの充実】 ①研究活動の事後評価システムを適正化し、各研究者の研究活動を公表する。 ②研究開発成果などの知的財産を総合的かつ戦略的に管理・活用する知的財産部門を設置する。 ○達成目標 ・論文数(査読有りのもの、学術書掲載のもの)：英文誌70件(年間) ・学会発表(国際学会での招待講演、シンポジスト招聘に限る)：25件(年間) ・特許保有件数：3件(第2期中期計画期間を通して年間に保有する件数)	2-1【平成27年度計画】 ○研究活動の評価・検証システムの運用方法を見直す。 ○各教員の研究活動の中で客観的評価の高い研究内容や、大学が推進する研究の成果をホームページ上で公表する。 ○知的財産担当副学長を配した学内体制で、大学の知的財産が有効に管理・活用されているかを検証する。 ○達成目標 ・論文数(査読有りのもの、学術書掲載のもの)：英文誌80件 ・学会発表(国際学会での招待講演、シンポジスト招聘に限る)：30件 ・特許保有件数：1件		1		【平成27年度の実施状況】 ○昨年度見直した新たな評価方法に基づき、研究業績を評価し、研究計画と研究実施能力に基づいて研究費を配分した。 ○各教員の研究活動の中で客観的評価の高い研究内容や、大学が推進する研究成果をホームページ上で公表した。(大学院生3件、教員2件) ○本学の研究成果を知的財産の観点から検証する組織として発明審査会(2件)を開催した。 ○目標実績 ・論文数(査読有り、学術書掲載のもの)：英文誌78件 ・学会発表(国際学会での招待講演、シンポジスト招聘に限る)：27件 ・特許保有件数：3件		B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.20「論文等の実績」	17
		【自己評価の修正の有無】		(決定)	(理由)						
		【ウエイトの修正の有無】									
年度評価	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容								
24	評価	ウエイト	評価	ウエイト							
25											
26											
27											
28											
29											
				1		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○研究活動の評価方法を見直し、研究業績を評価し、研究計画と研究実施能力に基づいて研究費を配分してきた。研究費の配分に応じて研究成果が上がっていることから、評価方法と研究費配分の方法は概ね良好と考えられる。 ○各教員の研究活動の中で優秀と判断した研究内容や、大学が推進する研究成果をホームページ上で公表してきた。 ○発明審査会を発足し、申請のあった発明に関して審査を行っている。 ○毎年平均して論文数(査読有り、学術書掲載のもの)：英文数70件以上、国際学会での招待講演、シンポジスト招聘：25件、特許保有件数：3件とほぼ目標数を達成している。 ○目標実績 ・論文数(査読有り、学術書掲載のもの)：英文誌 70件(H24)、73件(H25)、70件(H26)、78件(H27) ・学会発表(国際学会での招待講演、シンポジスト招聘に限る)：25件(H24)、27件(H25)、25件(H26)、27件(H27) ・特許保有件数：3件(H24)、3件(H25)、3件(H26)、3件(H27) 【平成28、29年度の実施予定】 ○研究活動の評価方法と研究費の配分と研究成果の相関について客観的に検証し、必要に応じて見直す。 ○継続して各教員の研究活動の中で客観的評価の高い研究内容や、大学が推進する研究成果をホームページ上で公表する。 ○継続して発明審査会開催し発明内容を客観的に審査する。 ○論文数(査読有り、学術書掲載のもの)：英文数80件以上、国際学会での招待講演、シンポジスト招聘30件・特許保有件数：3件と目標数を確実に達成できるよう努力する。		B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		中期 ○
		【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)									
		【自己評価の修正の有無】		(決定)	(理由)						
		【ウエイトの修正の有無】									
中期目標期間評価 (暫定評価を含む)	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容								
24～27年度(4年間)	評価	ウエイト	評価	ウエイト							
24～29年度(6年間)											

中期計画		平成27年度計画		ウエイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																																
項目	実施事項	中期	年度	中期	年度		中期	年度		中期	年度																																															
3【外部大型研究資金の獲得】 ①大学として、大型外部資金獲得のために積極的な活動を行う。 ○達成目標 ・科学研究費：60件(年間) ・委託研究費・共同研究費：60件(第2期中期計画期間中) ・奨学寄付金：60件(第2期中期計画期間中) ・文部科学省等が設定する大型プロジェクトの獲得：1件(第2期中期計画期間中)	3-1【平成27年度計画】 ○教員個人が積極的に外部研究資金を申請し、総獲得数の増加を目指す。 ○大学として継続的に歯工学連携や他大学連携などを通じ組織的に研究資金獲得を推進する。 ○大学組織としての外部大型資金の獲得に向けて活動する。 ○達成目標 ・科学研究費：60件 ・委託研究費・共同研究費：10件 ・奨学寄付金：10件	2	【平成27年度の実施状況】 ○教員個人の外部研究資金の増加を目指し、科研費の採択件数の目標を上回った。 ○文部科学省補助金事業「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(GOCプラス)」に連携校として参加し、採択された。 ○継続して大学組織としての外部大型資金の獲得を目指し、関係機関との連携に向けた協議を行い、平成28年度申請することとした。 ○目標実績 ・科学研究費：85件 ・委託研究費・共同研究費：9件 ・奨学寄付金：10件	A	【高く評価する点】 ○文部科学省補助金事業「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(GOCプラス)」において、申請校北九州市立大学と十分な協議を行い、1つのプロジェクトリーダーとして参加することとなった。この事業で、北九州版CCRC活動を展開することが可能となった。 ○科学研究費においては、学術振興会のみならず厚生労働省の競争的資金も獲得した。 【実施(達成)できなかった点】	No.19「研究」	18																																																			
	<p>(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)</p> <p>【自己評価の修正の有無】 (決定) (理由)</p> <p>【ウエイトの修正の有無】</p>																																																									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度 評価</th> <th colspan="2">自己評価</th> <th colspan="2">評価委員会</th> <th rowspan="2">業務実績評価書の記載内容</th> </tr> <tr> <th>評価</th> <th>ウエイト</th> <th>評価</th> <th>ウエイト</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>24</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td rowspan="6"></td></tr> <tr><td>25</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>26</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>27</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>28</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>29</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>											年度 評価	自己評価		評価委員会		業務実績評価書の記載内容	評価	ウエイト	評価	ウエイト	24						25					26					27					28					29										
	年度 評価							自己評価		評価委員会			業務実績評価書の記載内容																																													
								評価	ウエイト	評価	ウエイト																																															
	24																																																									
	25																																																									
	26																																																									
	27																																																									
	28																																																									
29																																																										
<p>【平成24～27年度の実施状況概略】 ○教員個人が外部研究資金が増加し、科研費の採択件数の目標を上回り、採択率は全国6位となった。 ○継続して大学組織として関係機関と連携することで外部大型資金の獲得を目指した結果、医歯工学連携や他大学との連携で文部科学省補助金事業等に採択された。 ○第2期中期計画期間中の目標のうち、科学研究費：60件(年間)は毎年達成し、文部科学省等が設定する大型プロジェクトの獲得：1件(第2期中期計画期間中)はすでに達成した。 ○「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(GOCプラス)」で、CCRC活動を展開することを決定した。 ○目標実績 ・科学研究費：72件(H24)、91件(H25)、99件(H26)、85件(H27) ・委託研究費・共同研究費：38件(第2期中期計画期間中) ・奨学寄付金：58件(第2期中期計画期間中) ・文部科学省等が設定する大型プロジェクトの獲得：代表校1件・連携校3件(第2期中期計画期間中)</p> <p>【平成28、29年度の実施予定】 ○科研費の採択件数は目標を上回り、採択率は全国上位となったが、まだ科研費を申請していない教員も存在しているため、教員の申請を積極的に促し、獲得額の増加を目指す。 ○継続して大学組織として関係機関と連携することで外部大型研究資金の獲得を目指す。</p>																																																										
<p>【自己評価の修正の有無】 (決定) (理由)</p> <p>【ウエイトの修正の有無】</p>																																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">中期目標期間評価 (暫定評価を含む)</th> <th colspan="2">自己評価</th> <th colspan="2">評価委員会</th> <th rowspan="2">業務実績評価書の記載内容</th> </tr> <tr> <th>評価</th> <th>ウエイト</th> <th>評価</th> <th>ウエイト</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>24～27年度(4年間)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td rowspan="2"></td></tr> <tr><td>24～29年度(6年間)</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>											中期目標期間評価 (暫定評価を含む)	自己評価		評価委員会		業務実績評価書の記載内容	評価	ウエイト	評価	ウエイト	24～27年度(4年間)						24～29年度(6年間)																															
中期目標期間評価 (暫定評価を含む)	自己評価		評価委員会		業務実績評価書の記載内容																																																					
	評価	ウエイト	評価	ウエイト																																																						
24～27年度(4年間)																																																										
24～29年度(6年間)																																																										

中期計画		平成27年度計画		ウエイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号										
項目	実施事項	中期	年度	中期	年度		中期	年度		中期	年度									
4【産学官連携の推進】 ①一般企業ならびに学外諸機関との交流を深め、歯学部得意分野を活かした連携を推進する。 ○達成目標 ・産学官連携件数：40件(第2期中期計画期間中) ・特許出願件数：10件(第2期中期計画期間中)	4-1【平成27年度計画】 ○他領域の学問分野にも注目される研究活動を展開し、福岡県の産業に貢献する研究を推進する。 ○大学間連携事業をさらに発展させ、県民の健康・福祉の向上に向けた研究を推進する。 ○達成目標 ・産学官連携数：5件 ・特許出願件数：2件	1	1	【平成27年度の実施状況】		【平成27年度の実施状況】 ○他領域の学問分野にも注目される研究活動を展開し、福岡県の産業に貢献する研究を推進することを目的に、文部科学省大学連携による「ものづくり」継承支援人材育成協働プロジェクトにおいて、国際学会1件を開催した。 ○文部科学省補助金事業「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(GOCプラス)」に連携校として参加し、福岡県と協働で高齢者のQOL支援に係る実践的教育や地元企業との連携によるビジネス創生を推進した。 ○目標実績 ・産学官連携数：9件 ・特許出願件数：1件	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.21「産学官連携」	19										
				【自己評価の修正の有無】							(決定)	(理由)								
				【ウエイトの修正の有無】																
				年度評価	自己評価						評価委員会	業務実績評価書の記載内容								
				24	評価						ウエイト	評価	ウエイト							
				25																
				26																
				27																
				28																
				29																
		1	1	【平成24～27年度の実施状況概略】		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○平成24年度大学間連携共同教育推進事業に「地域連携による『ものづくり』継承支援人材育成協働プロジェクト」が採択され、福岡県の産業に貢献する研究を推進している。 ○文部科学省補助金事業「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(GOCプラス)」に連携校として参加し、福岡県と協働で高齢者のQOL支援に係る実践的教育や地元企業との連携によるビジネス創生を推進している。 ○目標実績 ・産学官連携数：10件(H24)、10件(H25)、9件(H26)、9件(H27) ・特許出願件数：2件(H24)、0件(H25)、1件(H26)、1件(H27) 【平成28、29年度の実施予定】 ○継続して福岡県の産業に貢献する研究を推進するための外部大型研究資金獲得を目指す。 ○第2期中期計画期間中の産学官連携件数、特許出願件数の目標を達成できるよう、積極的に産学官連携や特許出願を行う。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		中期 ○										
				【自己評価の修正の有無】							(決定)	(理由)								
				【ウエイトの修正の有無】																
				中期目標期間評価	自己評価						評価委員会	業務実績評価書の記載内容								
				(暫定評価を含む)	評価						ウエイト	評価	ウエイト							
				24～27年度(4年間)																
				24～29年度(6年間)																
				【評価委員会】 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)																
				【自己評価の修正の有無】							(決定)	(理由)								
				【ウエイトの修正の有無】																
ウエイト総計		中期	27年度	項目数計																
		4	5							中期	27年度									
				4	4															

【ウエイト付けの理由】(年度計画)

「2-1-3-1」大学としてのプレゼンスを高め、新たな大型外部資金の獲得を図る。

【ウエイト付けの理由】(中期計画)

研究に関する特記事項(平成27年度)

研究に関する特記事項(平成24年度～平成27年度)

(評価委員会)
【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)

【意見・コメント等】

研究に関する特記事項の業務実績評価書(平成24年度～平成27年度)の記載内容

項目別の状況(年度計画項目・中期計画項目)

中期目標 3. 社会貢献		大学の特色を活かして、社会貢献活動を拡充する。 大学の特色を活かして、歯科医師や歯科衛生士等のキャリアアップに資する教育プログラム等の実施や、地域の歯科保健医療の発展に貢献する取組を積極的に実施する。 また、国際化を推進するための体制を強化し、アジアをはじめとする海外の大学等との交流を充実させる。																	
項目	実施事項	平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号										
			中期	年度		中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度								
1. 地域社会への貢献及び国際交流に関する体制の構築・維持 1. 社会貢献及び国際交流の促進 2. 地域連携及び国際交流に係る業務の組織的対応	1 【リカレント教育の充実】 ①地域歯科医療に携わる歯科医療職に対して、セミナーの開催やe-learning等を通じたリカレント教育を展開する。 ○達成目標 ・開催回数および受講者数：開催回数 2回/年 受講者数 50人/回 ・アンケートによる満足度調査：満足度4点以上(満点5) ・e-learningの満足度調査：満足度4点以上(満点5) ○達成目標 ・開催回数および受講者数：開催回数 2回/年 受講者数 80人/回 ・アンケートによる満足度調査：満足度4点以上(満点5) ・e-learningの満足度調査：満足度4点以上(満点5)	1-1 【平成27年度計画】 ○地域歯科医療関係者や介護医療従事者に対するセミナーを開催する。 ・歯科医師等を対象としたセミナーを開催するとともに、受講満足度にかかるアンケート調査をもとに検証する。 ○健康者型から高齢者型に変化している歯科治療に対応できる歯科医療リカレント教育システムの構築を検討する。 ・高齢者に対応し、高齢者の治療やケアを行える歯科医療リカレント教育プログラムを作成する。 ○e-learningの充実を図る。 ・e-learning受講者を対象とした受講満足度にかかるアンケート調査を引き続き実施する。 ○達成目標 ・開催回数および受講者数：開催回数 2回/年 受講者数 80人/回 ・アンケートによる満足度調査：満足度4点以上(満点5) ・e-learningの満足度調査：満足度4点以上(満点5)	1	【平成27年度の実施状況】 ○地域歯科関係者に対するセミナーを実施した。 ・お口の健康セミナーを開催し、55名の医療関係者の参加があった。 ・参加者のアンケートによる満足度調査の結果、平均満足度は4.5であった。 ○リカレント教育プログラムについては大学間連携プロジェクトの中で幅広く展開することとした。 ○e-learningを配信し、受講満足度の実態把握に努めた。 ・e-learning受講者を対象とした受講満足度にかかるアンケートを実施したところ、平均満足度は4.0であった。 ○目標実績 ・開催回数および受講者数：開催回数 1回/年 受講者数 55名/回 ・お口の健康セミナーの満足度調査：満足度4.5点(満点5点) ・e-learningの満足度調査：満足度4.0点(満点5点)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		20	(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)										
									【自己評価の修正の有無】		(決定)	(理由)							
									【ウェイトの修正の有無】										
									年度評価	自己評価 評価	ウェイト	評価委員会 評価	ウェイト	業務実績評価書の記載内容					
									24										
									25										
									26										
									27										
									28										
									29										
			1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○平成27年度で6回目となるお口の健康セミナーを毎年実施してきた。内容は歯科だけでなく多職種連携を意識した講演内容を企画してきており、歯科医療従事者や介護医療従事者ならびに地域住民にも定着してきた。 ○平成24～28年度、文部科学省大学間連携共同教育推進事業として「地域連携による『ものづくり』継承支援人材育成協働プロジェクト」「まちなかESDセンターを核とした実践的人材育成」、平成27～31年度、文部科学省地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COCプラス)「北九州・下関学びとびあを核とした地方創生モデルの構築」に採択され、各々において連携教育、遠隔講義等を実施することとなった。このような事業により、当初予定に比べe-Learningの利活用状況は増加している。 ○目標実績 ・開催回数および受講者数：開催回数・受講者数 ー(H24)、1回・84名(H25)、1回・56名(H26)、1回・55名(H27) ・お口の健康セミナーの満足度調査：満足度 ー(H24)、ー(H25)、4.6点(H26)、4.5点(H27) (満点5点) ・e-learningの満足度調査：満足度 4.5点(H24)、4.3点(H25)、4.3点(H26)、4.0点(H27) (満点5点) 【平成28、29年度の実施予定】 ○引き続き、お口の健康セミナーを実施し、地域歯科医療関係者や介護医療従事者だけでなく地域住民を含めた形で啓発活動を進めていく。また近隣の大学とも連携しながら開かれた大学としての位置づけをさらに推進していくとともに、内容の充実を図っていく予定である。 ○平成24年及び27年に採択された諸事業において、本学学生以外に行なう連携教育、遠隔講義をもって、本計画を発展させていく。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		中期 ○	(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)										
									【自己評価の修正の有無】		(決定)	(理由)							
									【ウェイトの修正の有無】										
									中期目標期間評価 (暫定評価を含む)	自己評価 評価	ウェイト	評価委員会 評価	ウェイト	業務実績評価書の記載内容					
									24～27年度(4年間)										
									24～29年度(6年間)										

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号		
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度
	2【他大学との社会貢献共同プログラムの実施及び研究成果等の地域への発信】 ①県立三大学連携による社会貢献共同プログラムを実施する。 ②市民公開講座等を通じて、地域住民に研究成果等の情報を広く発信する。 ○達成目標 ・県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの実施：1企画以上 ・市民公開講座開催数および受講者数：開催数3回/年 受講者数50人/回 ・受講者の満足度に係るアンケート：受講者の満足度 満足度4以上(満点5)	2-1【平成27年度計画】 ○三大学連携による地域貢献活動の実施を目指す。 ・「県立三大学連携会議」により、各大学の特色を活かした地域貢献連携事業を継続する。 ○公開講座等により地域住民に研究成果等を情報発信する。 ・医療従事者や一般市民等を対象とした公開講座を開催する。 ・北九州市の4大学(北九州市立大学、九州工業大学、産業医科大学、九州歯科大学)が連携し、4大学スクラム講座を継続して実施する。 ・福岡県が設置した「福岡県歯科口腔保健支援センター」の業務を支える研究を展開する。 ○達成目標 ・県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの実施：1企画 ・市民公開講座開催数および受講者数：開催数3回/年 受講者数50人/回 ・受講者の満足度に係るアンケート：受講者の満足度満足度4以上(満点5)		1	【平成27年度の実施状況】 ○平成27年10月25日日本大学学祭(歯大祭)において、福岡女子大学、福岡県立大学との連携による市民公開講座を開催し、本学柿木病院長による「健康は口から!!」の講演を行った。 ○平成27年11月14、15日に西日本総合展示場新館AIMビル3階において本学、産業医科大学、九州工業大学、北九州大学による「4大学スクラム講座(市民公開講座)」を開催し、本学からは吉野准教授による「食べて脳トレ～健康と幸福のキーワードは健口と口福～」の講演を行い、多くの市民から好評を得た(2日間述べ参加者数196名、満足度4以上91.3%)。 ○平成27年11月21日にTKP小倉シティセンターにおいて北九州市内4大学(北九州市立大学、九州工業大学、産業医科大学、本学)連携による、高齢者の健康増進をテーマとした一般市民向けのシンポジウムを開催し、本学からは、小林客員准教授、松田助教による「いつまでも「食べられる」「話せる」「笑える」ために～口腔から健康を考える～」の講演を行った。 ○平成28年2月27日に本学講堂において「お口の健康セミナー(きれいで元気に長生きするために)」の市民公開講座を開催し、本学からは安細教授による「栄養と口の病気の関係～とくに歯周病について～」の講演を行った。 ○学長重点研究費を活用して、「福岡県歯科口腔保健推進に関する条例」を支える研究を支援した。 ○目標実績 ・県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの実施：1企画 ・市民公開講座開催数および受講者数：開催数11回/年 受講者数76人/回 ・受講者の満足度に係るアンケート：受講者の満足度 満足度4.6(満点5)		B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No. 22「大学間連携」 No. 23「公開講座」		21
(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)											
【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)							
【ウェイトの修正の有無】											
年度評価	自己評価 評価	ウェイト	評価委員会 評価	ウェイト	業務実績評価書の記載内容						
24											
25											
26											
27											
28											
29											
				1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○三大学連携事業としては、平成24年度から平成26年度の3年間「食べる・噛む・生きる」をテーマにした県民公開講座を実施してきた。平成27年度からは、各大学で行う公開講座に後援の形で参加している。 ○4大学スクラム講座は、毎年継続して開催されており、市民動員数は平成24年208名、平成25年242名、平成26年166名、平成27年196名という状況であった。 ○本学主催の市民公開講座は、従来より開催している「お口の健康セミナー」、「歯大祭」のほか、平成26年度より、医歯工連携の成果を発信する市民公開シンポジウム「健康長寿社会を目指して」を開催している。 ○学長重点研究費を活用して、「福岡県歯科口腔保健推進に関する条例」を支える研究を支援した。 ○目標実績 ・県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの実施：1企画(H24)、1企画(H25)、1企画(H26)、1企画(H27) ・市民公開講座開催数および受講者数： 開催数・受講者数 7回・81人/回(H24)、7回・160人/回(H25)、9回・72人/回(H26)、11回・76人/回(H27) ・受講者の満足度に係るアンケート：受講者の満足度 4以上(H24)、4以上(H25)、4.8(H26)、4.6(H27) (満点5) 【平成28、29年度の実施予定】 ○三大学連携による地域貢献活動、4大学スクラム講座、市民公開講座を継続して実施する。 ○「福岡県歯科口腔保健推進に関する条例」を支える研究を継続して支援する。		B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		中期 ○	
(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)											
【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)							
【ウェイトの修正の有無】											
中期目標期間評価 (暫定評価を含む)	自己評価 評価	ウェイト	評価委員会 評価	ウェイト	業務実績評価書の記載内容						
24～27年度(4年間)											
24～29年度(6年間)											

中期計画		平成27年度計画		ウエイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号		
項目	実施事項	中期	年度	中期	年度		中期	年度		中期	年度	
3	【アジアを軸とした海外との連携促進】 ①アジア諸国から留学生を積極的に受け入れる体制を強化する。 ②海外大学との学術交流を推進する。 ③ネパールやベトナムを中心とした歯科保健活動を推進する。 ○達成目標 ・留学生数：5人(第2期中期計画期間中) ・海外大学との学術交流件数：5件(第2期中期計画期間中)	3-1	【平成27年度計画】 ○留学生を積極的に受け入れる。 ・学部・大学院への外国人留学生受入のため、入試やカリキュラム等の体制を検討する。 ○海外大学との学術交流を進める。 ・九州歯科大学基金を設置し、学術交流協定締結校をはじめとする海外大学との間で学生交流事業を実施する。 ・海外研究者との連携を図り、国際シンポジウムを開催する。 ○海外での歯科保健活動を推進する。 ・ベトナム等のアジア諸国との交流を深め、幅広い活動を展開する。 ○達成目標 ・留学生数：1人 ・海外大学との学術交流件数：2件		2	【平成27年度の実施状況】 ○留学生の積極的な受け入れを行った。 ・大学院歯学研究科博士課程において、入学試験に英語による面接試験を導入し、タイからの留学生1名を受け入れた。 ○海外大学との学術交流を進めた。 ・九州歯科大学基金を設置し、学術交流協定締結校であるシーナカリンウィロート大学(タイ)と高雄医科大学(台湾)の2大学との学術交流を進めた。歯学部学生の海外短期派遣プログラムを正規の選択科目「国際歯科医学実習」として位置づけ、本格的に実施した。平成27年度はタイに4名、台湾に2名、合計6名の学生を派遣した。 ・タイ(シーナカリンウィロート大学)から3名、台湾(高雄医科大学)から3名、合計6名の短期派遣学生を受け入れた。 ・海外研究者との連携を図るため、文部科学省大学間連携共同教育推進事業において国際シンポジウム「Interdisciplinary Medical, Dental and Soft-material Researches on the move」を開催した。 ・本学学長がフィンランド、タイ、ミャンマー等の大学から客員教授として招聘され、各大学において講義を行った。 ○海外での歯科保健活動を推進した。 ・前年度に引き続き、ベトナムでの歯科保健活動にチームを組んで派遣を行った。 ○目標実績 ・留学生数:大学院1人 ・海外大学との学術交流件数:4件		A+	【高く評価する点】 ○本学の大学院にタイのシーナカリンウィロート大学から1名の学生が入学した。学術交流協定締結校との学術交流を推進し、本学の正規の選択科目として短期派遣プログラムが本格的に実施された。短期派遣に加えて、学術交流協定締結校の学部学生の受け入れも本格的に開始した。学長自らが、Visiting Professorとしてミャンマー2大学、ヘルシンキ大学に向き、講義を行い、次なる連携に向けての一手を打つことができた。 【実施(達成)できなかった点】	No. 24「国際交流協定」 No. 25「学生、教員の国際交流」		22
<p>(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)</p> <p>【自己評価の修正の有無】 (決定) (理由)</p> <p>【ウエイトの修正の有無】</p>												
年度評価		自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容								
24												
25												
26												
27												
28												
29												
				2	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○海外大学との学術交流を進めた。 ・ミャンマー、香港、台湾、フィンランド、カナダ、タイ、インドの大学との協定書に基づく、学術交流を開始した。(7ヶ国9大学と連携協定を締結) ・学生の海外短期派遣プログラムを構築し、平成26、27年度で合計11名の学生をタイと台湾に派遣した。平成27年度より、同プログラムは正規の選択科目として単位認定されている。 ・海外学部学生の短期受け入れも行い、平成26、27年度で7名の学生をタイと台湾から受け入れた。 ・海外研究者との連携を図るため、本学主催で国際シンポジウム(ASIA - PACIFIC CONFERENCE)を平成25年度から毎年開催し、平成27年度まで合計3回のシンポジウムを開催した。 ○留学生の積極的な受け入れに向けた活動を行った ・大学院歯学研究科博士課程において、入学試験に英語による面接試験を導入し、タイからの留学生1名を受け入れた。 ○海外での歯科保健活動を推進した。 ・ベトナムやミャンマーにおける歯科保健活動に専門家を派遣した。 ○目標実績 ・留学生数：3人(学部1名、大学院2名) ・海外大学との学術交流協定件数：9件(第2期中期計画期間中)		A	【高く評価する点】 ○創立百周年のテーマであった「Think globally, act locally」を具現化することができ、本学の国際化における方向性を確立させることができた。 【実施(達成)できなかった点】		中期 ○		
<p>(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)</p> <p>【自己評価の修正の有無】 (決定) (理由)</p> <p>【ウエイトの修正の有無】</p>												
中期目標期間評価(暫定評価を含む)		自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容								
24～27年度(4年間)												
24～29年度(6年間)												

項目	実施事項	中期計画		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号			
		平成27年度計画	ウエイト		中期	年度		中期	年度		
4	【地域住民の健康増進に資する普及・啓発活動の実施】 ①保育園、幼稚園等への訪問による講演や歯科相談を実施する。 (歯と口を通じた地域住民の子育て支援活動) ②公民館、老人クラブ等への訪問による講演や歯科相談を実施する。 (食べる機能の維持・向上を通じた高齢者の自立支援活動) ③福岡県歯科保健医療計画の見直しに必要なデータを提供する。 (福岡県民への歯科保健医療施策に対する後方支援活動) ○達成目標 ・保育園、幼稚園等への訪問回数及びアンケート調査：5回 満足度4以上(満点5) ・公民館、老人クラブ等への訪問回数及びアンケート調査：5回 満足度4以上(満点5)	4-1	【平成27年度計画】 ○保育園、幼稚園等への訪問による講演や歯科相談を継続して実施する。 (歯と口を通じた地域住民の子育て支援活動) ○公民館、老人クラブ等への訪問による講演や歯科相談を実施し、アンケート調査を分析する。 (食べる機能の維持・向上を通じた高齢者の自立支援活動) ○達成目標 ・保育園、幼稚園等への訪問回数及びアンケート調査：5回 満足度4以上(満点5) ・公民館、老人クラブ等への訪問回数及びアンケート調査：5回 満足度4以上(満点5)	1	【平成27年度の実施状況】 ○大学近隣の保育園、幼稚園に訪問して分かりやすい講演とお口の相談を実施した。 ・到津保育園、天心幼稚園、八幡カトリック幼稚園の3施設で実施し、満足度に関するアンケート調査を行った。(保護者72名、園児69名)。 ○小倉北区老人クラブ連合会とともに小倉歯科医師会の在宅歯科医療連携室と連携して、高齢者に対する口腔保健に関する講演と相談を実施し、満足度に関するアンケート調査を行った。 ・南丘校区老人連合会、南小倉校区老人会(参加者数:116名) ○苅田町の「すてきにマンデーサロン」(苅田町中央公民館)で口腔保健に関する講話を行った。(5回) ○目標実績 ・保育園、幼稚園等への訪問回数:3回、満足度4.6 ・公民館、老人クラブへの訪問回数:7回、満足度4.8	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】			23	
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)									
		【自己評価の修正の有無】				(決定)	(理由)				
		【ウエイトの修正の有無】									
		年度評価	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容						
		24	評価	ウエイト	評価	ウエイト					
		25									
		26									
		27									
		28									
29											
4	【地域住民の健康増進に資する普及・啓発活動の実施】 ①保育園、幼稚園等への訪問による講演や歯科相談を実施する。 (歯と口を通じた地域住民の子育て支援活動) ②公民館、老人クラブ等への訪問による講演や歯科相談を実施する。 (食べる機能の維持・向上を通じた高齢者の自立支援活動) ③福岡県歯科保健医療計画の見直しに必要なデータを提供する。 (福岡県民への歯科保健医療施策に対する後方支援活動) ○達成目標 ・保育園、幼稚園等への訪問回数及びアンケート調査：5回 満足度4以上(満点5) ・公民館、老人クラブ等への訪問回数及びアンケート調査：5回 満足度4以上(満点5)		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○保育園・幼稚園でも講演・歯科相談の実施 ・大学近隣の保育園・幼稚園5施設で継続体へ実施できる体制が整備でき、講演と相談の内容について高い評価を得た。 ・近隣住民の幼児期における口腔管理にかかる知識・意識を高めることができた。 ○老人クラブとの連携による講演・歯科相談の実施 ・小倉北区老人クラブ連合会と連携して、高齢者に対する口腔保健に関する講演と相談を継続的に実施する体制が整備でき、講演・相談ともに高評価を得た。 ・近隣の高齢者の口腔に関する意識・知識を高めることができた。 ・学生実習と運動して、北九州市が実施する高齢者地域交流支援通所事業で歯科保健事業にかかる参加型実習を行った。 ・苅田町でも事業を展開し、「すてきにマンデーサロン」(苅田町中央公民館)で口腔保健に関する講話を年3回行った。 ○目標実績 ・保育園、幼稚園等への訪問回数・満足度：－(H24)、5回・4.6(H25)、5回・4.7(H26)、3回・4.6(H27) ・公民館、老人クラブへの訪問回数・満足度：－(H24)、9回・4.8(H25)、9回・4.9(H26)、2回・4.8(H27)	1	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】			中期 ○		
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)									
		【自己評価の修正の有無】				(決定)	(理由)				
		【ウエイトの修正の有無】									
		中期目標期間評価 (暫定評価を含む)	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容						
24～27年度(4年間)	評価	ウエイト	評価	ウエイト							
24～29年度(6年間)											

中期計画		平成27年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項	中期	年度	中期	年度		中期	年度		中期	年度
	5【地域における在宅療養高齢者に対する歯科保健医療サービスの提供】 ①地域で在宅療養を行っている高齢者の口腔機能に着目して、摂食嚥下リハビリテーションなどの歯科保健医療サービスを提供する。	5-1【平成27年度計画】 ○地域で在宅療養を行っている高齢者に対して摂食嚥下リハビリテーション等の歯科保健医療サービスを実施し、成果と体制のあり方を検証する。 ・在宅ケアにおけるかかりつけ歯科医との連携の推進について、関係団体と協議する。			1	【平成27年度の実施状況】 ○地域で在宅療養を行っている高齢者に対して摂食嚥下リハビリテーション等の歯科保健医療サービスを実施し、成果と体制のあり方を検証を行った。平成27年度の対象件数は10件であった。その症例の受診は上半期3件、下半期7件であった。 ○在宅ケアにおけるかかりつけ歯科医との連携の推進及び、関係団体との協議などについては、小倉歯科医師会と1回の連携協議会を開催した。		B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		24
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)									
		【自己評価の修正の有無】		(決定)	(理由)						
		【ウェイトの修正の有無】									
年度評価	自己評価 評価	ウェイト	評価委員会 評価	ウェイト	業務実績評価書の記載内容						
24											
25											
26											
27											
28											
29											
					1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○地域で在宅療養を行っている高齢者に対して摂食嚥下リハビリテーション等の歯科保健医療サービスを実施し、成果と体制のあり方を検証を行った。また、在宅ケアにおけるかかりつけ歯科医との連携の推進について、関係団体と協議を行った。 平成28年4月の「口腔保健・健康長寿推進センター」設立準備を行った。 【平成28、29年度の実施予定】 ○「口腔保健・健康長寿推進センター」の設立に伴い、より地域で在宅療養を行っている高齢者に対して摂食嚥下リハビリテーション等の歯科保健医療サービスを実施する基盤が整った。今後、このセンターを軸に、摂食嚥下リハビリテーションなどの歯科保健医療サービスを提供する。また、北九州市歯科医師会をはじめとした、在宅ケアにおけるかかりつけ歯科医との連携の推進について、関係団体との協議も継続して行う。		B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		中期 ○
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)									
		【自己評価の修正の有無】		(決定)	(理由)						
		【ウェイトの修正の有無】									
中期目標期間評価 (暫定評価を含む)	自己評価 評価	ウェイト	評価委員会 評価	ウェイト	業務実績評価書の記載内容						
24～27年度(4年間)											
24～29年度(6年間)											
		ウェイト総計		中期	27年度			項目数計		中期	27年度
				6	6					5	5

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

「3-1-3-1」平成27年度に設置される九州歯科大学基金を有効に活用し、海外との交流を積極的に展開する。

【ウェイト付けの理由】(中期計画)

「3-1-3-1」創立百周年記念事業を単なるイベントで終わらせることなく、本学のプレゼンスを高めるとともに、次なる世代につながるものを残す。

社会貢献に関する特記事項(平成27年度)	
社会貢献に関する特記事項(平成24年度～平成27年度)	
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)	【意見・コメント等】
社会貢献に関する特記事項の業務実績評価書(平成24年度～平成27年度)の記載内容	

項目別の状況(年度計画項目・中期計画項目)

中期計画		平成27年度計画		ウエイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号			
項目	実施事項	中期	年度	中期	年度		中期	年度		中期	年度		
4. 業務運営 「理事長のリーダーシップのもと、大学運営の改善を推進する。」 大学は、理事長のリーダーシップのもと、自立性を確保しつつ、社会のニーズに対応するため、柔軟かつ機動的に教育研究体制を整備し、大学運営の改善を推進する。 多様化する大学運営の課題に対応するため、専門性を備えた人材の確保・育成を図る。													
1. 事務局体制の強化 1. 戦略的・自律的 大学運営をさらに 進めるための 専門部署の設置 2. 専門性を有 する人材の確保・ 育成による、県派 進職員に依存す る業務体制から 自律的・大学運営 に資する業務体 制への転換	【大学の戦略的・自律的運営を企画 主導する企画広報部門の設置及び 運営体制の検証】 ①大学運営の戦略や中期計画等重 要事項の企画立案・検討を行い、情 報発信の中心となる企画広報部門 を経営管理部に設置する。 ②企画広報部門により、戦略的・自 律的・大学運営を推進する。 ③企画広報部門の業務運営を検証 する。	1-1	【平成27年度計画】 ○企画広報班において中期計画等重要事項の企画 立案・検討を行い、効果的な情報発信とともに、戦略 的・自律的・大学運営を推進する。 ○企画広報班の設置の効果を引き続き検証し、必要 に応じて見直しを行う。	1	【平成27年度の実施状況】 ○企画広報班において、中期計画に係る進捗管理を行うとともに、効果的に本学の情報発信を行った。 ・計画項目ごとに実施責任者およびそれをサポートする事務局窓口を明示し、責任体制を明確にした。 ・進捗の把握に努めるとともに、案件によっては部局長等連絡会議の議題として協議を行う等の対応をとり、戦略的自律的 大学運営が行われるよう努めた。 ・本学のブランドイメージについて情報発信を行った。 ○文部科学省補助金事業「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COCプラス)」において、事務局が一体となって取り 組み、申請校の北九州市立大学との間で調整しながら、プロジェクト10「北九州地区COCRCによる高齢者QOLビジネス創出」 を申請書の中に盛り込む作業を行った。 ○企画広報班の役割や効果について検証した。 ・引き続き、班長以下情報処理専門のプロパー職員を含めた職員3名体制をとった。 ・事務局における企画広報班の役割が浸透し、部局間の連絡調整がより円滑化するとともに、産学連携や海外大学、北九州 市、豊前市などの自治体等との協定締結で役割を果たすなど、対外的な法人窓口として業務フローの円滑化をさらに進めた。	A	【高く評価する点】 ・学長の指示のもと、企画広報班 を中心に、プロジェクトの計画書 及び申請書の作成を教職連携で 進めることができ、COCプラスの 核となるCOCRC活動を開始する ことができた。 【実施(達成)できなかった点】	25					
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)											
		【自己評価の修正の有無】				(決定)	(理由)						
		【ウエイトの修正の有無】											
		年度 評価	自己評価 評価	ウエイト	評価委員会 評価	ウエイト	業務実績評価書の記載内容						
		24											
		25											
		26											
		27											
		28											
29													
				1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○企画広報班の役割や効果について検証した。(24～27年度) ・平成24年度に新たに設置した企画広報班に班長以下職員3名、うち1名は情報処理専門として採用したプロパー職員を配 置し、業務を行った。 ・企画広報班の設置に伴い、事務局内各班の業務見直しを行い、平成24年度には、大学の戦略的・自律的運営を企画主 導する中期・年度計画やその実績のとりまとめといった企画部門、ホームページ等広報部門、情報管理や情報セキュリティに 関する業務の移管を行い、企画・情報管理・広報にかかる所管が明確になった。25年度からは産学連携や海外大学の協定な ど対外的な法人窓口となり、さらに平成27年度には北九州市、豊前市などの自治体等との協定締結で役割を果たすなど、業 務フローの円滑化をさらに進めた。 ○企画広報班において、中期計画に係る進捗管理を行うとともに、効果的に情報発信を行った。(平成25～27年度) ・計画項目ごとに実施責任者及びそれをサポートする事務局窓口を明示し、責任体制を明確にした。 ・進捗の把握に努めるとともに、案件によっては部局長等連絡会議の議題として協議を行う等の対応をとり、戦略的自律的 大学運営が行われるよう努めた。 ・ホームページ・大学案内のリニューアルやUIマニュアルの策定等を行い、創立百周年の話題も効果的に交えるなど、本学の ブランドイメージについて情報発信の中心的役割を担った。 【平成28、29年度の実施予定】 ○企画広報班の役割や効果について、引き続き検証を進めていくとともに必要に応じて見直しを行う。 ・平成28年度より企画広報班に新たに科学研究費などの研究費事務、国庫補助事業の事務処理等を行う職員が1名配置さ れ、班長以下職員4名体制となったが、業務フローの円滑化について検証を進めてい く。 ○企画広報班において、中期計画に係る進捗管理、次期中期計画の策定作業を行うとともに効果的に情報発信を行って いく。 ・現中期計画の進捗管理を行いながら、課題について整理し、次期中期計画の策定を行う。 ・引き続き、本学のブランドイメージについて情報発信を行っていく。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	中期 ○					
(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)													
【自己評価の修正の有無】				(決定)	(理由)								
【ウエイトの修正の有無】													
中期目標期間評価 (暫定評価を含む)	自己評価 評価	ウエイト	評価委員会 評価	ウエイト	業務実績評価書の記載内容								
24～27年度(4年間)													
24～29年度(6年間)													

中期計画		平成27年度計画		ウエイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号											
項目	実施事項	中期	年度	中期	年度		中期	年度		中期	年度										
2【プロパー職員の採用と専門性を持った大学職員の育成】 ①事務職や看護職等のプロパー職員を採用し、将来の大学運営を担う専門性を持った職員を育てる。 ②プロパー事務職員の人事評価制度を導入し、必要に応じて見直す。 ③人事評価に基づき採用計画の検証・見直しを行い、第3期中期計画期間に向けた事務局体制を検討する。	2-1	【平成27年度計画】 ○専門性を有する職員を育成するため、競争試験等によりプロパー職員を採用し、その人事評価制度の導入を検討する。 ・プロパー職員について、退職者が出た際は、専門性を持った有能な人材の確保を行う。 ・プロパー事務職員の人事評価制度の導入については、引き続き三大学で検討する。 ・プロパー職員の勤務状況等を検証し、自立的大学運営を推進する。	1	【平成27年度の実施状況】 ○平成25年度から競争試験を実施している附属病院の歯科衛生士については、職員1名を採用した。 ○人事評価制度の導入について、三大学で引き続き検討することとした。 ○これまでに採用したプロパー職員の勤務状況は良好で能力も高い状況にある。	B	【高く評価する点】				26											
		【実施(達成)できなかった点】																			
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)																			
		【自己評価の修正の有無】				(決定)					(理由)										
		【ウエイトの修正の有無】																			
		年度		自己評価		評価委員会					業務実績評価書の記載内容										
		評価		ウエイト		評価					ウエイト										
		24																			
		25																			
		26																			
27																					
28																					
29																					
		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○優秀な人材を確保するため、事務職員は三大学共同採用試験(競争試験)に取り組み、能力のある人材確保に取り組んできた。また、附属病院の歯科衛生士についても競争試験により採用を行うことで優秀な人材確保に努めている。 ○プロパー職員に係る新たな職の設置や給与体系を見直すなど処遇改善にも取り組んできた。 【平成28、29年度の実施予定】 ○今後も優秀な人材を確保するため、事務局職員、附属病院の歯科衛生士の採用に当たっては競争試験により採用を行っていく。 また、職員研修を充実させることで職員個々の能力を向上させ自立的大学運営を進めていく。 ○プロパー事務職員に対する人事評価制度の導入を進めていく。	1	B	【高く評価する点】				中期 ○												
					【実施(達成)できなかった点】																
					(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)																
					【自己評価の修正の有無】					(決定)	(理由)										
					【ウエイトの修正の有無】																
					中期目標期間評価					自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容									
					(暫定評価を含む)					評価	ウエイト	評価	ウエイト								
					24～27年度(4年間)																
					24～29年度(6年間)																

中期計画		平成27年度計画	ウエイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																															
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																																													
	3【SDの実施や専門研修等への派遣、キャリア開発支援等を軸とした事務局職員の資質・能力の向上】 ①福岡県の公立大学の職員としてふさわしい知識や資質を身に付けさせるため、事務局職員を対象としたSDを検討し実施する。 ②大学運営のスペシャリストとして育成するため、プロパー職員を公立大学協会等が主催する外部セミナーや専門研修へ派遣する。 ③事務局職員の自律的なキャリア開発支援として、自己啓発や通信教育などに対する支援を検討し実施する。 ④より機能的な事務体制の実現に向けて、県立三大学の事務処理の共通化を検討し実施する。	3-1【平成27年度計画】 ○プロパー職員の採用を機に、事務局職員の資質・能力の向上に取り組む。 ・事務局職員のSDを検証し、改善する。 ・県職員研修所と引き続き委託契約を締結し、プロパー職員を各種研修(基本研修・専門研修)へ参加させる。また、公立大学協会が主催するセミナー・専門研修を受講させるとともに、職員が自主的・自発的に通信教育等を受講する場合は、経費の一部を助成する。 ・県立三大学、また北九州四大学による共同研修の実施について検討する。 ・県立三大学経営管理部会議において、事務処理の共通化について引き続き検討する。		1	【平成27年度の実施状況】 ○事務局職員の資質・能力の向上・育成のため、SDの実施や研修機会の確保・提供に努めた。 ・職員へのSDとして、大学法人化の経緯や第2期中期計画における実施状況等についてオリエンテーションを実施した。 ・プロパー職員に、公立大学協会主催セミナーや県職員研修所の新採職員研修等に積極的に参加させた。 ・県立三大学による共同研修の実施、及び事務処理の共通化については、引き続き検討することとなった。 ・北九州四大学による共同研修の実施は、北九州大学主催の研修に他大学が参加することを手始めとして連携が進むよう取り組むこととした。		B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		27																																														
<p>(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)</p> <p>【自己評価の修正の有無】 (決定) (理由)</p> <p>【ウエイトの修正の有無】</p>																																																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度 評価</th> <th colspan="2">自己評価</th> <th colspan="2">評価委員会</th> <th rowspan="2">業務実績評価書の記載内容</th> </tr> <tr> <th>評価</th> <th>ウエイト</th> <th>評価</th> <th>ウエイト</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>24</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>25</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>26</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>27</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>28</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>29</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>											年度 評価	自己評価		評価委員会		業務実績評価書の記載内容	評価	ウエイト	評価	ウエイト	24						25						26						27						28						29					
年度 評価	自己評価		評価委員会		業務実績評価書の記載内容																																																			
	評価	ウエイト	評価	ウエイト																																																				
24																																																								
25																																																								
26																																																								
27																																																								
28																																																								
29																																																								
				1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○事務局職員の資質・能力の向上・育成のため、SDの実施や研修機会の確保・提供に努めてきた。 ・職員へのSDとして、大学法人化の経緯等についてオリエンテーションを実施するほか、公立大学協会主催セミナーや県職員研修所の新採職員研修等に積極的に参加させてきた。 ・プロパー職員の自己啓発意識の高揚や資質向上を図るため、受講料の一部を助成し、通信研修を受講させてきた。 ・県立三大学による共同研修の実施、及び事務処理の共通化について、継続して検討を行っている。 【平成28、29年度の実施予定】 ○事務局職員の資質・能力の向上、人材育成の観点から、引き続き、職員に対するSDの実施や研修機会の確保・提供に努めていく。 ・職員に対するSDのメニューを充実させる。 ・公立大学協会主催セミナーや県職員研修所の新採職員研修等に積極的に参加させていく。		B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		中期 ○																																														
<p>(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)</p> <p>【自己評価の修正の有無】 (決定) (理由)</p> <p>【ウエイトの修正の有無】</p>																																																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">中期目標期間評価 (暫定評価を含む)</th> <th colspan="2">自己評価</th> <th colspan="2">評価委員会</th> <th rowspan="2">業務実績評価書の記載内容</th> </tr> <tr> <th>評価</th> <th>ウエイト</th> <th>評価</th> <th>ウエイト</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>24～27年度(4年間)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>24～29年度(6年間)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>											中期目標期間評価 (暫定評価を含む)	自己評価		評価委員会		業務実績評価書の記載内容	評価	ウエイト	評価	ウエイト	24～27年度(4年間)						24～29年度(6年間)																													
中期目標期間評価 (暫定評価を含む)	自己評価		評価委員会		業務実績評価書の記載内容																																																			
	評価	ウエイト	評価	ウエイト																																																				
24～27年度(4年間)																																																								
24～29年度(6年間)																																																								

中期計画		平成27年度計画		ウエイト		計画の実施状況等	自己評価			データ番号	通し番号		
項目	実施事項	中期	年度	中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度	
2. 安全管理体制の整備・充実 1. 戦略的・自律的 大学運営を支える安全管理体制の充実 2. 安心・安全の医療の提供	【情報ネットワークや情報セキュリティの強化による情報マネジメントシステムの拡充】 ①情報セキュリティポリシーを策定する。 ②情報セキュリティの検証、教職員に対する広報・研修を行い、情報マネジメントの運用体制の充実を図る。	1-1	【平成27年度計画】 ○情報セキュリティポリシーの適切な運用を図るとともに、内容を検証する。 ○情報セキュリティポリシーについて、教職員に対して引き続き周知を図る。		1	【平成27年度の実施状況】 ○CIOである副理事長のもと、情報セキュリティポリシーの運用・検証を充実した。 ・引き続き、情報セキュリティポリシーを運用していく上で、具体的事例ごとに検証を行った。現状として規定上の不具合は認められなかった。 ○情報セキュリティポリシーについて、周知に努めた。 ・引き続き学内ホームページに関連規程、体制図や階層ごとの権限・責任等一覧表等を掲載した。 ・情報セキュリティ上の脅威について、具体例を交えて教職員に注意喚起を行った。 ・情報処理専門職員の資質向上のため、関連団体や民間が主催するセミナーに積極的に参加させた。 ・事務局における情報の円滑な管理・運用のため、CIOのもと情報適正管理委員会を開催した。 ○ITセキュリティ予防接種(標的型メール攻撃対策訓練)を行った。 ・標的型メール攻撃を疑似体験させることにより組織・個人のセキュリティ意識の向上を図るとともにその結果について分析を行った。			【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】			28	
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)											
		【自己評価の修正の有無】				(決定)	(理由)						
		【ウエイトの修正の有無】											
		年度	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容								
		評価	評価	ウエイト	評価	ウエイト							
		24											
		25											
		26											
		27											
28													
29													
					1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○情報マネジメントを強化するための体制を整備した。(平成24年度) ・企画広報班に情報処理専門のプロパー職員を配置し、情報マネジメント業務を担うこととした。 ・セキュリティポリシーの策定に向け、関連団体や民間が主催するセミナーへの参加等を通じて、情報収集を行った。 ○情報マネジメントの根幹となる情報セキュリティポリシーを策定した。(平成25年度) ・情報セキュリティポリシーとして、「公立大学法人九州歯科大学情報セキュリティ基本方針」と「公立大学法人九州歯科大学情報セキュリティ対策基準」を制定した。 ○副理事長をCIOとし、情報マネジメントの運用体制を確立した。(平成25年度) ・情報セキュリティポリシーにおいて、運用体制を規定し、責任の所在の明確化を行った。 ・情報処理専門職員の資質向上のため、関連団体や民間が主催するセミナーに積極的に参加させた。 ○CIOである副理事長のもと、情報セキュリティポリシーの運用・検証を充実した。(平成26～27年度) ・情報セキュリティポリシーを運用していく上で、具体的事例ごとに検証を行った。現状として規定上の不具合は認められなかった。 ○情報セキュリティポリシーについて、周知に努めた。(平成26～27年度) ・学内ホームページに関連規程等をアップするとともに、体制図や階層ごとの権限・責任等一覧表等も併せて掲載した。 ・情報セキュリティ上の脅威について、具体例を交えて教職員に注意喚起を行った。 ・情報処理専門職員の資質向上のため、関連団体や民間が主催するセミナーに積極的に参加させた。 ・事務局における情報の円滑な管理・運用のため、CIOのもと情報適正管理委員会を開催した。 ○ITセキュリティ予防接種(標的型メール攻撃対策訓練)を行った。(平成27年度) ・標的型メール攻撃を疑似体験させることにより組織・個人のセキュリティ意識の向上を図るとともにその結果について分析を行った。 【平成28、29年度の実施予定】 ○引き続き情報セキュリティポリシーの適切な運用を図るとともに、内容を検証する。 ・情報セキュリティポリシーを運用していく上で、具体的事例ごとに検証を行う。 ○情報セキュリティポリシーについて、教職員に対して周知を図るとともに、その効果を検証する。 ・情報セキュリティ上の脅威について、具体例を交えて教職員に注意喚起を行う。 ・情報処理専門職員の資質向上のため、関連団体や民間が主催するセミナーに積極的に参加させる。 ○新たに導入される学内情報ネットワークについて更新等を速やかに行う。			【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】			中期 ○	
(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)													
【自己評価の修正の有無】				(決定)	(理由)								
【ウエイトの修正の有無】													
中期目標期間評価 (暫定評価を含む)	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容										
評価	評価	ウエイト	評価	ウエイト									
24～27年度(4年間)													
24～29年度(6年間)													

中期計画		平成27年度計画		ウエイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号							
項目	実施事項	中期	年度	中期	年度		中期	年度		中期	年度						
2【安心・安全の医療を提供するための体制の整備】 ①附属病院診療機器更新の整備計画を策定する。 ②診療情報管理体制を充実する。 ③医療情報システムを充実する。 ④医療安全に関する検証・対策を強化する。 ⑤医療従事者の技術向上等に向けた研修体制を拡充する。 ○達成目標 ・医療従事者の技術向上等に関する研修の実施：年2回	2-1【平成27年度計画】 ○附属病院における安心・安全の医療を提供するための体制整備を推進する。 ・病院会議において、附属病院診療機器更新の整備計画を引き続き策定し、実施する。また、診療機器の管理について検討する。 ・病院会議において、診療情報管理士の配置に向けた作業を継続するとともに、電子カルテ導入にむけての方略を検討する。 ・病院会議において、リスクマネジメント活動の強化に向け、医療安全管理室(仮称)及び医療情報管理室の設置に関する規程等を策定するとともに、両管理室の人員配置についても検討を始める。 ・院内感染対策、医療事故防止及び薬剤安全に関する講習会を実施し、出席率の向上を目指した検討を行う。 ○達成目標 ・医療従事者の技術向上等に関する研修の実施：年2回	1	【平成27年度の実施状況】 ○附属病院における安心・安全の医療を提供するための体制整備を推進した。 ・病院会議において、附属病院診療機器更新の整備計画を引き続き策定し、実施した。また、診療機器の安全管理体制について他の歯科大学病院を対象とした調査研究を行った。 ・病院会議において、診療情報管理士の配置に向けた作業を継続して行った。また、電子カルテ導入にむけての方略を検討した。 ・病院会議において、リスクマネジメント活動の強化に向け、医療安全管理室及び医療情報管理室の設置に関する規程等を策定するとともに、両管理室の人員配置についても検討を始めた。 ・院内感染対策、医療事故防止及び薬剤安全に関する講習会を実施し、出席率の向上を目指した検討を行った。未受講者への補講やDVD貸し出し等を行った結果、昨年度2回行った講習会の出席率は 89.2%、87.2%であった。 ○目標実績 ・医療従事者の技術向上等に関する研修の実施：年2回実施した	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	29											
							【評価委員会】 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)										
							【自己評価の修正の有無】				(決定)	(理由)					
							【ウエイトの修正の有無】										
							年度	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容							
							評価	ウエイト	評価	ウエイト							
							24										
							25										
							26										
							27										
28																	
29																	
2-1【平成27年度計画】 ○附属病院における安心・安全の医療を提供するための体制整備を推進する。 ・病院会議において、附属病院診療機器更新の整備計画を引き続き策定し、実施する。また、診療機器の管理について検討する。 ・病院会議において、診療情報管理士の配置に向けた作業を継続するとともに、電子カルテ導入にむけての方略を検討する。 ・病院会議において、リスクマネジメント活動の強化に向け、医療安全管理室(仮称)及び医療情報管理室の設置に関する規程等を策定するとともに、両管理室の人員配置についても検討を始める。 ・院内感染対策、医療事故防止及び薬剤安全に関する講習会を実施し、出席率の向上を目指した検討を行う。 ○達成目標 ・医療従事者の技術向上等に関する研修の実施：年2回	2-1【平成24～27年度の実施状況概略】 ○附属病院における安心・安全の医療を提供するための体制整備を推進した。 ・病院会議において、附属病院診療機器更新の整備計画を実施し、診療機器の安全管理体制について調査研究を行った。 ・病院会議において、診療情報管理士の配置に向けた作業を継続し、電子カルテ導入を検討している。 ・病院会議において、リスクマネジメント活動の強化に向け、医療安全管理室及び医療情報管理室の設置を進めている。 ・院内感染対策、医療事故防止及び薬剤安全に関する講習会を実施し、出席率の向上を目指した結果、平成27年度2回行った講習会の出席率は 89.2%、87.2%であった。 ○目標実績 ・医療従事者の技術向上等に関する研修の実施：年2回(H24)、年2回(H25)、年2回(H26)、年2回(H27) 【平成28、29年度の実施予定】 ○附属病院における安心・安全の医療を提供するための体制整備を推進する。 ・病院会議において、附属病院診療機器更新の整備計画を引き続き策定し、実施する。また、診療機器の管理について検討を進める。 ・病院会議において、診療情報管理士の配置に向けた作業を継続するとともに、電子カルテ導入を推進する。 ・病院会議において、リスクマネジメント活動の強化に向け、医療安全管理室及び医療情報管理室の人員配置を進める。 ・院内感染対策、医療事故防止及び薬剤安全に関する講習会を実施し、出席率の向上を目指した工夫を行う。	1	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	中期 ○												
						【評価委員会】 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)											
						【自己評価の修正の有無】				(決定)	(理由)						
						【ウエイトの修正の有無】											
						中期目標期間評価	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容								
						(暫定評価を含む)	評価	ウエイト	評価	ウエイト							
						24～27年度(4年間)											
						24～29年度(6年間)											

中期計画		平成27年度計画		ウエイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号			
項目	実施事項	中期	年度	中期	年度		中期	年度		中期	年度		
3. 教員個人業績評価の充実 1. 個人業績評価制度の適切な運用	【個人業績評価制度の検証と適切な運用】 ①口腔保健学科教員に対応する個人業績評価制度を検討し、1学部2学科体制に適した運用方法を構築する。 ②個人業績評価に係る教員処遇方法を検証し、必要に応じて改善する。	1-1	【平成27年度計画】 ○平成24年度に設定した「個人業績評価に関する実施基準」による評価を継続する。 ・自己評価実績報告書の付属書の内容を業務実態を踏まえ検討し、改善する。 ・平成26年度の評価、評価実施内容の検証に加え、学内ガバナンス体制の再編を踏まえ、評価方法等の見直しを行う。		1	【平成27年度の実施状況】 ○平成26年度の個人業績評価結果(S、A～Eの6区分による最終評価)を踏まえ、評価の低い教員(C以下)に対して、面談等の個人業績評価委員会活動を通じて、今後の研鑽、業務改善を促した。 ○個人業績評価検討部会において、評価対象者からの意見を踏まえるとともに、評価項目毎の評点バランスを考慮し、一部の項目について評価対象者の範囲(臨床活動)及び評点(研究、臨床活動)を見直すとともに、評価項目の追加(教育、臨床活動、社会貢献)を行った。 ○個人業績評価検討部会において、優れた教育を実践する教員の顕彰制度(ベストティーチャー賞)の選定基準案を策定し、個人業績評価委員会での審議を経て、適用を開始した。		B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】			30	
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)											
		【自己評価の修正の有無】				(決定)	(理由)						
		【ウエイトの修正の有無】											
		年度	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容								
		評価	ウエイト	評価	ウエイト								
		24											
		25											
		26											
		27											
28													
29													
			1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○個人業績評価の方法を見直した。各教員の自己評価実績報告書及び付属書の合計評点等に基づき、分野長、学部長、学長による評価(5段階評価)を順次行い、それらの評価結果に基づく個人業績評価委員会での審議を経て、6区分(S、A～E)で最終評価を行なうシステムに改善した。 ○最終評価が低い教員(C以下)については、学部長、分野長による面談を複数回実施し、業績改善を促すとともに、教員の意識向上を図ってきた。その結果、経年的に最終評価は改善しており、面談の対象となる教員数も減少した。 ○評価対象者の意見に加え、業務実態や評価項目毎の評点バランスを考慮し、付属書の一部について評価項目及び評点の見直しを行った。また、優れた教育を実践する教員の顕彰制度を構築した。 【平成28、29年度の実施予定】 ○平成27年度までに、個人業績評価の方法及び評価項目等に関して改善を積み重ねてきたことから、現行の制度を引続き適用し個人業績評価を行う。一方、評価対象者からは、適宜、意見を聴取することとしており、業務実態を勘案のうえ、評価項目の見直し等を継続的に実施する。		B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】			中期 ○			
(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)													
【自己評価の修正の有無】				(決定)	(理由)								
【ウエイトの修正の有無】													
中期目標期間評価	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容										
(暫定評価を含む)	評価	ウエイト	評価	ウエイト									
24～27年度(4年間)													
24～29年度(6年間)													

中期計画		平成27年度計画	ウエイト		計画の実施状況等	自己評価			データ番号	通し番号																																																	
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度																																																
4. 附属病院の業務改善 1. 新たな診療体制の確立 2. 地域歯科医療連携体制の整備 3. 療養担当規則の徹底等、より適切な保険診療の推進	①診療科再編の効果を検証し、先進医療の円滑な実施に資する診療体制を確保する。	1-1	【平成27年度計画】 ○患者中心の診療体制と学修者中心の教育体制が共存できるような専門診療部と歯科診療部の体制を構築する。 ○学生診療への同意書を得るシステムを導入し、同意書の受託率を歯科医療人育成病院としての視点で検証する。 ○教員・医員・大学院生・研修医・学生の全てが医事システムを活用して診療科間の連携体制を構築する。	1	【平成27年度の実施状況】 ○患者中心の診療体制と学修者中心の教育体制の共存を図るため病院診療体制を改変した。 ・病院の診療科を主に高度先進医療を提供する専門診療部と、主に教育の中核を担い包括歯科診療を担当する総合診療部に分ける診療体制の変更を行った。 ・総合診療部において、患者の診療体制ならびに学修者の教育体制の一層の充実を図ることを目的として、包括歯科診療におけるクリニック・パスの作成を行い、総合診療部全体に周知する作業を行った。 ○平成26年度より学生診療への同意書を得るシステムを導入しているが、同意の受託率に関しては月別にモニターし検証を行った。 ・平成26年度より紹介状のない新患者の最初の窓口となる予約科にて、総合診療部が担当する新患者に対して、学生の診療参加型臨床実習(自験)への協力に対する意志の確認を同意書の署名を通して行っているが、平成27年度の同意の受託率は月別で81～93%の間を推移し、月平均受託率は85.0%と高い受託率を維持した。 ○教員・医員・大学院生・研修医・学生の全てが医事システムを活用して診療科間の連携体制の強化を行った。 ・教員、医員、大学院生、研修医に加え、学生も医事システムを活用して、診療参加型臨床実習で担当している患者の予約管理を行い、指導教員との患者情報の共有を行った。 ・診療科間の患者情報を医事システムを通じて共有し連携を強化した。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】			31																																																	
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項) 【自己評価の修正の有無】 (決定) (理由) 【ウエイトの修正の有無】																																																									
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">自己評価</th> <th colspan="2">評価委員会</th> <th rowspan="2">業務実績評価書の記載内容</th> </tr> <tr> <th>評価</th> <th>ウエイト</th> <th>評価</th> <th>ウエイト</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>24</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>25</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>26</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>27</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>28</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>29</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>												年度	自己評価		評価委員会		業務実績評価書の記載内容	評価	ウエイト	評価	ウエイト	24						25						26						27						28						29					
		年度	自己評価		評価委員会		業務実績評価書の記載内容																																																				
評価	ウエイト		評価	ウエイト																																																							
24																																																											
25																																																											
26																																																											
27																																																											
28																																																											
29																																																											
			【平成24～27年度の実施状況概略】 ○平成25年度に専門診療部に新たに口腔内科を新設し、高齢化社会における疾病構造の変化に対応できる体制を構築し、また口腔内科において専門診療部の新患者の対応を一元化することにより患者の待ち時間の短縮など患者サービスの向上を行った。 ○平成26年度は、臨床教育の中で、診療参加型臨床実習(自験)を実施するため、学生専用の第2総合診療科を新設するなど、学生が包括的歯科診療を実践できる教育システムを構築した。また学生の自験を病院体制としてサポートし、患者から学生診療に対する同意が得られやすいシステムの構築を行った。 ○患者中心の診療体制と学修者中心の教育体制の共存を図るため病院の診療科を主に高度先進医療を提供する専門診療部と、主に教育の中核を担い包括歯科診療を担当する総合診療部に分ける診療体制の変更を行った。 【平成28、29年度の実施予定】 ○医育病院としての教育体制を強化するため、総合診療部診療科の再編を行う。 ○学生診療への同意書の受託率80%以上を維持し、歯科医療人育成病院としての視点で参加型臨床実習を検証する。	1	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】			中期 ○																																																		
(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項) 【自己評価の修正の有無】 (決定) (理由) 【ウエイトの修正の有無】																																																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">中期目標期間評価 (暫定評価を含む)</th> <th colspan="2">自己評価</th> <th colspan="2">評価委員会</th> <th rowspan="2">業務実績評価書の記載内容</th> </tr> <tr> <th>評価</th> <th>ウエイト</th> <th>評価</th> <th>ウエイト</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>24～27年度(4年間)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>24～29年度(6年間)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>												中期目標期間評価 (暫定評価を含む)	自己評価		評価委員会		業務実績評価書の記載内容	評価	ウエイト	評価	ウエイト	24～27年度(4年間)						24～29年度(6年間)																															
中期目標期間評価 (暫定評価を含む)	自己評価		評価委員会		業務実績評価書の記載内容																																																						
	評価	ウエイト	評価	ウエイト																																																							
24～27年度(4年間)																																																											
24～29年度(6年間)																																																											

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																															
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																																													
	2【地域包括型歯科医療連携の機能の整備】 ①病診連携室の業務を拡充し、地域包括型歯科医療連携体制を整備する。	2-1 【平成27年度計画】 ○継続して病診連携室の業務を拡充し、地域包括型歯科医療連携体制を整備する。 ○達成目標 ・北九州市および近隣の歯科医師会との意見交換会の実施(1回/年) ・開業医・病院歯科勤務医を対象とした医療連携研修会の開催(1回/年) ・厚生労働省指定の地域医療支援病院との医療連携を拡充し、医療の質の向上と緊急時の医療体制を構築する。		1	【平成27年度の実施状況】 ○地域医療連携室の業務において地域歯科医療機関からの紹介歯科医師のデータ収集に、医科総合病院から口腔ケア医療連携の連絡機能が追加され、地域包括型歯科医療連携体制がより充実した。 ○近隣歯科医師会での講演をはじめ、地域歯科医師との情報交換としてかかりつけ歯科推進事業(実績4回/年、実施日、9月30日、10月28日、11月24日、12月14日)が行われた。 ・病院勤務医との医療連携会(北九州下関地区病院歯科等勤務医会、実績3回/年、実施日、6月10日、9月9日、12月12日)が行われた。 ・大学病院、地域医療支援病院をはじめ5つの医科総合病院(産業医科大学病院、八幡製鉄記念病院、小倉医療センター、小倉記念病院、戸畑共立病院)との緊急病態別医療連携網(平成27年11月10日付院内配布、周知)を構築した。 ○達成目標 ・北九州市および近隣の歯科医師会との意見交換会の実施(4回/年) ・開業医・病院歯科勤務医を対象とした医療連携研修会の開催(3回/年)		B			32																																														
<p>(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)</p> <p>【自己評価の修正の有無】 (決定) (理由)</p> <p>【ウェイトの修正の有無】</p>																																																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度評価</th> <th colspan="2">自己評価</th> <th colspan="2">評価委員会</th> <th rowspan="2">業務実績評価書の記載内容</th> </tr> <tr> <th>評価</th> <th>ウェイト</th> <th>評価</th> <th>ウェイト</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>24</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>25</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>26</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>27</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>28</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>29</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>											年度評価	自己評価		評価委員会		業務実績評価書の記載内容	評価	ウェイト	評価	ウェイト	24						25						26						27						28						29					
年度評価	自己評価		評価委員会		業務実績評価書の記載内容																																																			
	評価	ウェイト	評価	ウェイト																																																				
24																																																								
25																																																								
26																																																								
27																																																								
28																																																								
29																																																								
			1		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○紹介歯科医師のデータベース化、口腔ケア医療連携、地域歯科医師会、病院歯科との連携、医科総合病院との連携などおむね順調に医療連携構築が進んでいる。 【平成28、29年度の実施予定】 ○紹介歯科医師のデータベース化の充実、大学附属病院発の紹介歯科医師への情報提供の拡充、歯科口腔疾患別に特定の医科医療機関との連携強化を企画立案する。		B			中期 ○																																														
<p>(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)</p> <p>【自己評価の修正の有無】 (決定) (理由)</p> <p>【ウェイトの修正の有無】</p>																																																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">中期目標期間評価 (暫定評価を含む)</th> <th colspan="2">自己評価</th> <th colspan="2">評価委員会</th> <th rowspan="2">業務実績評価書の記載内容</th> </tr> <tr> <th>評価</th> <th>ウェイト</th> <th>評価</th> <th>ウェイト</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>24～27年度(4年間)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>24～29年度(6年間)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>											中期目標期間評価 (暫定評価を含む)	自己評価		評価委員会		業務実績評価書の記載内容	評価	ウェイト	評価	ウェイト	24～27年度(4年間)						24～29年度(6年間)																													
中期目標期間評価 (暫定評価を含む)	自己評価		評価委員会		業務実績評価書の記載内容																																																			
	評価	ウェイト	評価	ウェイト																																																				
24～27年度(4年間)																																																								
24～29年度(6年間)																																																								

中期計画		平成27年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ番号	通し番号			
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度		
3	【療養担当規則をベースとした保険診療の推進】 ①電子カルテシステムの検討状況を踏まえ、診療記録の記載を充実する。 ②保険診療の理解を深化させるための研修を実施する。 ③診療報酬請求業務を充実させる。 ○達成目標 ・保険診療業務に関する研修：年12回	3-1	【平成27年度計画】 ○療養担当規則をベースとした保険診療の推進を継続する。 ・医療部会において検証し、診療記録の記載の充実に向けた指導を行う。 ・医療部会において、診療報酬請求状況の精査を行いデータベース化する。データベースから誤りが多い診療担当医を抽出し、それらの診療担当医に対して個別指導等の研修を実施する。 ・診療担当医への個別指導等の内容をまとめ、医療部会において検証した後、各診療科の医療部会員へ伝達し各診療科内で周知させる。 ○達成目標 保険診療業務に関する研修：年12回(診療担当医への個別指導等の研修)	1	1	【平成27年度の実施状況】 ○療養担当規則に則った保険診療の推進に努めた。 ・診療記録の記載内容の適正化に向けて、医療部会において診療録と診療報酬請求書について精査を行った。不適切な記載に関しては、診療担当医に対して個別指導を行い、診療録記載に関する研修を、年12回実施した。 ・医療部会から診療担当医への個別指導等の内容は、診療担当医の所属する診療科の歯科医師全員へ伝達し、研修を義務づけた。 ・誤りの多い記載事例を明確化したデータベースを各診療科に配布し、周知した。データベースの蓄積は継続した。 ・保険診療業務に関するFD・SDを2回行った。 ○目標実績 ・保険診療業務に関する研修：年12回	B					33	
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)											
		【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)							
		【ウェイトの修正の有無】											
		年度評価	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容								
		24	評価	ウェイト	評価	ウェイト							
		25											
		26											
		27											
		28											
29													
					【平成24～27年度の実施状況概略】 ○療養担当規則に則った保険診療の推進に努めた。 ・診療記録の記載内容の適正化に向けて、医療部会において診療録と診療報酬請求書について精査と個別指導を行い、毎年12回の診療録記載に関する研修を実施した。 ・医療部会から診療担当医への個別指導等の内容は、診療担当医の所属する診療科の歯科医師全員へ伝達研修し、その報告書を提出させた。 ・誤りの多い記載事例を明確化したデータベースを作成し、各診療科に配布し、周知した。 ○目標実績 ・保険診療業務に関する研修：年12回(H24)、年12回(H25)、年12回(H26)、年12回(H27) 【平成28、29年度の実施予定】 ○医療部会の強化を行い、指導をさらに強化する。 ・学内のみならず学外からも保健指導スタッフを加えたとともに、不適切な診療請求をチェックするソフトを導入して、さらなる適正保険診療の増加に努める。	B				中期	○		
(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)													
【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)									
【ウェイトの修正の有無】													
中期目標期間評価 (暫定評価を含む)	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容										
24～27年度(4年間)	評価	ウェイト	評価	ウェイト									
24～29年度(6年間)													
ウェイト総計			中期	27年度	項目数計								
			9	9									

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

【ウェイト付けの理由】(中期計画)

業務運営に関する特記事項(平成27年度)

業務運営に関する特記事項(平成24年度～平成27年度)

(評価委員会)
【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)

【意見・コメント等】

業務運営に関する特記事項の業務実績評価書(平成24年度～平成27年度)の記載内容

項目別の状況(年度計画項目・中期計画項目)

<p>中期目標 5. 財務</p>	<p>「経営者の視点に立って、法人の財政運営を行う。」 大学は、その運営が公的資金に支えられていることを踏まえ、経営者の視点に立って、不断の経営努力を行う。 収入については、教育研究活動等の活性化のため外部資金の獲得に積極的に取り組むなど、自己収入の増加に努める。 経費については、適正執行に努めるとともに、業務の効率化や人員配置の見直しを推進する。 附属病院については、教育研究機能の充実と医療サービスの向上に努めるとともに、経営の効率化を推進する。</p>
-----------------------	--

項目	実施事項	平成27年度計画		ウエイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号			
		中期	年度	中期	年度		中期	年度		中期	年度		
1. 法人収入の確保 1. 外部資金の獲得	<p>【外部研究資金等の獲得】 ①科学研究費、受託研究費・共同研究費、奨学寄付金等の個人研究費に加え、大学として外部大型資金の確保を図る。 ○達成目標 科学研究費、受託研究費・共同研究費、奨学寄付金の獲得件数及び金額 ・科学研究費 60件 100,000千円(年間) ・受託・共同研究費 60件 100,000千円(第2期中期計画期間中) ・奨学寄付金 60件 50,000千円(第2期中期計画期間中)</p>	1-1	【平成27年度計画】 ○個人研究費の獲得に努めるとともに、大学として組織的に外部資金の獲得を目指す。 ・個人研究費については、高水準を維持する。 ・外部資金についての情報収集を行い、獲得に向けた検討を組織的に行う。 ○達成目標 ・科学研究費 件数60件 金額100,000千円 ・受託・共同研究費 件数10件 金額15,000千円 ・奨学寄付金 件数10件 金額8,000千円			1	【平成27年度の実施状況】 ○外部資金獲得に積極的に取り組んだ結果、個人研究費については高水準を維持することができた。 ○目標実績 ・科学研究費 件数85件 金額135,076千円 ・受託・共同研究費 件数9件 金額6,864千円 ・奨学寄付金 件数10件 金額10,070千円		B	No.19「研究」		34	
		<p>(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)</p>											
		【自己評価の修正の有無】				(決定)	(理由)						
		【ウエイトの修正の有無】											
		年度評価	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容								
		24	評価	ウエイト	評価	ウエイト							
		25											
		26											
		27											
		28											
29													
					1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○大学組織として外部資金獲得に取り組んだ結果、科学研究費、共同研究費、奨学寄附金といった個人研究費は高い水準で推移してきている。 ○目標実績 ・科学研究費 件数 72件(H24)、91件(H25)、99件(H26)、85件(H27) 金額 151,014千円(H24)、156,555千円(H25)、160,712千円(H26)、135,076千円(H27) ・受託・共同研究費 38件 36,826千円(第2期中期計画期間中) ・奨学寄付金 56件 35,708千円(第2期中期計画期間中) 【平成28、29年度の実施予定】 ・平成27年度に引き続き、科学研究費、受託研究費・共同研究費、奨学寄付金等の個人研究費を高い水準で確保するとともに、大学として外部大型資金の確保に取り組む。		B			中期		
<p>(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)</p>													
【自己評価の修正の有無】				(決定)	(理由)								
【ウエイトの修正の有無】													
中期目標期間評価 (暫定評価を含む)	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容										
24～27年度(4年間)	評価	ウエイト	評価	ウエイト									
24～29年度(6年間)													

中期計画		平成27年度計画		ウエイト		計画の実施状況等	自己評価			データ番号	通し番号	
項目	実施事項	中期	年度	中期	年度		中期	年度	中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由		中期	年度
2. 運営経費の抑制 1. 業務の電子化・システム化による事務の省力化、人件費の抑制 2. 事務局業務の外部委託による人件費の抑制	1【事務局業務の外部委託、電子決裁システム導入や業務のシステム化による事務の省力化・人件費の抑制】 ①事務局の定型的な業務である給与支給事務を外部委託し、職員の削減と人件費の抑制を図る。 ②電子決裁システムを導入し、事務の省力化・ペーパーレス化を進める。 ③大学全体のIT化の一環として可能な業務をシステム化し、事務の省力化と従事人員の削減を図る。	1-1	【平成27年度計画】 ○給与支給事務を、引き続き外部委託するとともに、人事履歴管理を加味したシステム構築を検討する。 ○電子決裁システムについては、県立三大学経営管理部会議において、事務処理の共通化(三大学共通のシステム導入)を引き続き検討する。 ○基幹システムの更新によって付加されたグループウェア等の有効活用を図る。	1	1	【平成27年度の実施状況】 ○給与支給事務の外部委託を行うことで正確な給与支給を行うとともに職員の業務の軽減化に繋がった。 また、平成28年1月からのマイナンバー利用開始に伴い新たに発生した給与支払対象者からのマイナンバー収集保管業務を外部委託することで職員の業務の軽減化に努めた。 ○電子決裁システムに関する事務処理の共通化については引き続き検討することとした。 ○既存の基幹システムの更新を行った。また、新たなメールサーバーとしてOffice365を導入した。	B		【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】			35
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)		【自己評価の修正の有無】		(決定)	(理由)					
		【ウエイトの修正の有無】										
		年度評価	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容							
		24	評価	ウエイト	評価	ウエイト						
		25										
		26										
		27										
		28										
		29										
3. 附属病院の収入の向上 1. 高次医療の提供 2. 先進医療及び自費診療の推進 3. 訪問歯科診療の推進	1【地域包括型歯科診療連携体制に基づいた高次医療の提供による収入増】 ①地域の歯科医療機関との連携を積極的に進め、高次医療を提供することにより診療報酬の増を図る。 ・がん周術期医科連携の構築のための地域がん拠点病院、地域歯科医師会、九州歯科大学附属病院との連携を維持拡充する。 ・地域医療支援病院等の医科総合病院との連携・登録数の拡充を図る。 ・小児患者急変時の小児医療連携体制を図る。 ・紹介歯科医の情報を記載した患者情報提供書を提供し、紹介医の負担の軽減を図る。 ○達成目標 ・かかりつけ歯科医等との地域連携パスの策定	1-1	【平成27年度計画】 ○地域の歯科医療機関との連携を積極的に進め、高次医療を提供することにより診療報酬の増を図る。 ・がん周術期医科連携の構築のための地域がん拠点病院、地域歯科医師会、九州歯科大学附属病院との連携を維持拡充する。 ・地域医療支援病院等の医科総合病院との連携・登録数の拡充を図る。 ・小児患者急変時の小児医療連携体制を図る。 ・紹介歯科医の情報を記載した患者情報提供書を提供し、紹介医の負担の軽減を図る。	1	1	【平成27年度の実施状況】 ○医科総合病院(社会医療法人製鉄記念八幡病院)との間で医療・教育の連携の文書を交わし、九州歯科大学附属病院から定期的に出向し、がん周術期口腔ケアを行い医療連携の維持拡大を図った。 ○地域医療支援病院などの医科総合病院を核に急変時における病連携を構築した。具体的な疾患別では産業医科大学(気管内異物)、小倉記念病院(脳神経疾患、循環器疾患)、戸畑立病院(食道異物、術後合併症)との間で医療連携の登録・連絡網の構築を行った。 ○国立病院機構 小倉医療センター病院長と九州歯科大学附属病院長との間で医療連携(特に小児医療及び小児救急医療)の文書を交わした。 ○紹介歯科医師の要望により九州歯科大学附属病院ホームページ上に患者情報提供書をダウンロードでき、紹介歯科医師がパソコン上で記入できるように負担の軽減を図った。	B		【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】			36
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)		【自己評価の修正の有無】		(決定)	(理由)					
		【ウエイトの修正の有無】										
		中期目標期間評価 (暫定評価を含む)	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容							
		24~27年度(4年間)	評価	ウエイト	評価	ウエイト						
		24~29年度(6年間)										
		1-1	【平成27年度計画】 ○地域の歯科医療機関との連携を積極的に進め、高次医療を提供することにより診療報酬の増を図る。 ・がん周術期医科連携の構築のための地域がん拠点病院、地域歯科医師会、九州歯科大学附属病院との連携を維持拡充する。 ・地域医療支援病院等の医科総合病院との連携・登録数の拡充を図る。 ・小児患者急変時の小児医療連携体制を図る。 ・紹介歯科医の情報を記載した患者情報提供書を提供し、紹介医の負担の軽減を図る。	1	1	【平成27年度の実施状況】 ○患者紹介元の地域歯科医療機関のデータベースの作成が順調に行われた。 ○地元歯科医師会での講演会などを通じ信頼関係の向上が行われた。 ○医科総合病院との病連携構築はおおむね順調に行われた。	B		【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】			36
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)		【自己評価の修正の有無】		(決定)	(理由)					
		【ウエイトの修正の有無】										
		年度評価	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容							
		24	評価	ウエイト	評価	ウエイト						
		25										
		26										
		27										
		28										
		29										
		1-1	【平成27年度計画】 ○地域の歯科医療機関との連携を積極的に進め、高次医療を提供することにより診療報酬の増を図る。 ・がん周術期医科連携の構築のための地域がん拠点病院、地域歯科医師会、九州歯科大学附属病院との連携を維持拡充する。 ・地域医療支援病院等の医科総合病院との連携・登録数の拡充を図る。 ・小児患者急変時の小児医療連携体制を図る。 ・紹介歯科医の情報を記載した患者情報提供書を提供し、紹介医の負担の軽減を図る。	1	1	【平成27年度の実施状況】 ○患者紹介元の地域歯科医療機関のデータベースの作成が順調に行われた。 ○地元歯科医師会での講演会などを通じ信頼関係の向上が行われた。 ○医科総合病院との病連携構築はおおむね順調に行われた。	B		【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】			36
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)		【自己評価の修正の有無】		(決定)	(理由)					
		【ウエイトの修正の有無】										
		中期目標期間評価 (暫定評価を含む)	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容							
		24~27年度(4年間)	評価	ウエイト	評価	ウエイト						
		24~29年度(6年間)										

中期計画		平成27年度計画		ウエイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項	中期	年度	中期	年度		中期	年度		中期	年度
	3【訪問歯科診療の促進による収入増】 ①歯科診療所に対応が困難な患者に対し社会的要請の高まる訪問歯科診療を促進する。 ○達成目標 ・歯科診療所に対応困難な患者に対する訪問歯科診療及び訪問口腔衛生指導の実施回数：24回/年	3-1	【平成27年度計画】 ○歯科診療所に対応困難な患者に対する訪問歯科診療および訪問歯科衛生指導の実施状況と課題について引き続き検証して、歯科訪問診療の体制を整備する。 ○達成目標 ・歯科診療所に対応困難な患者に対する訪問歯科診療及び訪問口腔衛生指導の実施回数 訪問歯科診療24回以上/年、訪問口腔衛生指導12回以上/年		1	【平成27年度の実施状況】 ○平成27年度の歯科訪問診療は実日数70日、歯科訪問診療件数200件、訪問口腔衛生指導数120件、歯科訪問診療対象施設は、病院2施設、施設特養1施設の計3施設であった。 ○目標実績 ・歯科診療所に対応困難な患者に対する訪問歯科診療及び訪問口腔衛生指導の実施回数 訪問歯科診療48回/年、訪問口腔衛生指導48回/年		B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		38
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)									
		【自己評価の修正の有無】		(決定)	(理由)						
		【ウエイトの修正の有無】									
年度評価	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容								
24	評価	ウエイト	評価	ウエイト							
25											
26											
27											
28											
29											
				1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○歯科診療所に対応困難な患者に対する訪問歯科診療および訪問歯科衛生指導の実施状況と課題について検証し、歯科訪問診療の体制を整備を行った。件数に関して、設定した達成目標を大きく超え実施された。 ○目標実績 ・歯科診療所に対応困難な患者に対する訪問歯科診療及び訪問口腔衛生指導の実施回数 訪問歯科診療 28回(H24)、67回(H25)、41回(H26)、48回(H27) /年 訪問口腔衛生指導 25回(H24)、34回(H25)、37回(H26)、48回(H27) /年 【平成28、29年度の実施予定】 ○歯科診療所に対応困難な患者に対する訪問歯科診療および訪問歯科衛生指導の実施状況と課題について引き続き検証して、歯科訪問診療の体制を整備する。また、地域連携免からも病院や施設のみならず在宅への歯科訪問診療の件数を増加させる。		B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		中期 ○	
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)									
		【自己評価の修正の有無】		(決定)	(理由)						
		【ウエイトの修正の有無】									
中期目標期間評価 (暫定評価を含む)	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容								
24～27年度(4年間)	評価	ウエイト	評価	ウエイト							
24～29年度(6年間)											
		ウエイト総計		中期	27年度			項目数計		中期	27年度
				5	5					5	5

【ウエイト付けの理由】(年度計画)

【ウエイト付けの理由】(中期計画)

財務に関する特記事項(平成27年度)

財務に関する特記事項(平成24年度～平成27年度)

(評価委員会)
【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)

【意見・コメント等】

財務に関する特記事項の業務実績評価書(平成24年度～平成27年度)の記載内容

項目別の状況(年度計画項目・中期計画項目)

<p>中期目標 6. 評価及び情報公開</p>	<p>「評価を厳正に実施し、大学運営に反映する。また、大学情報を積極的に公開する。」 (1) 評価 教育・研究その他大学運営全般についての自己点検・評価を厳正に実施するとともに、福岡県公立大学法人評価委員会の評価及び認証評価機関の評価を、大学運営の改善に速やかに反映させる。 (2) 情報公開 学生や保護者等に対し適切かつ迅速に情報を提供するとともに、社会のニーズに適応した大学情報を積極的に公開し大学の存在感を高める。</p>
-----------------------------	--

項目	実施事項	平成27年度計画		ウエイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号			
		中期	年度	中期	年度		中期	年度		中期	年度		
<p>1. 外部評価の大学運営への反映</p> <p>1. 外部機関の評価結果の大学運営への反映</p> <p>2. 次期外部評価に向けた適切な対応</p>	<p>【適切な自己評価の実施及び外部評価の大学運営への反映】</p> <p>① 県評価委員会の評価結果を教職員に周知し、法人運営の現状と課題に対する意識付けを行うとともに、評価の低い事項について改善に向けた取組を行う。</p> <p>② 次期認証評価に向けた自己評価部会を立ち上げ、新たな評価基準に沿った自己評価を行うとともに、教職員や学生、卒業生に対するアンケートを継続的に実施する。</p> <p>③ 認証評価機関の評価を検証し、大学運営の改善すべき事項に対して速やかに対応する。</p>	1-1	【平成27年度計画】	1	1	<p>【平成27年度の実施状況】</p> <p>○平成28年度における大学機関別認証評価の受審に向け、自己評価部会として、例年と同様に継続的な活動を展開した。また、平成27年6月に大学評価・学位授与機構が開催した大学機関別認証評価等に関する説明会及び研修会に出席した。</p> <p>○自己評価部会が実施した、教職員、学生及び卒業生に対するアンケート調査結果を「自己評価部会だより」として学内に配付した。一部施設の照度が不十分という指摘に基づき検討を行い、附属病院高層階の廊下照明について改善を図った。また、学内のWi-Fi環境やシラバスについても改善を行うこととした。</p> <p>○大学機関別認証評価の自己評価書作成に着手し、前回受審時以降の学内の組織改編(学部、大学院、附属機関)、九州歯科大学大学憲章の制定に伴う教育改編を自己評価書の各基準に的確に反映すべく、自己評価部会で精力的な検討を行った。</p> <p>○平成26年度の県評価委員会の評価結果については、平成27年9月に開催された全学説明会において、理事長から、全教職員に説明するとともに周知を行った。平成26年度の業務実績については全般に高い評価であったが、各項目のさらなる充実改善に向け全学的に取り組むことを学内で確認した。</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>		39			
		<p>(評価委員会)</p> <p>【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)</p>											
		【自己評価の修正の有無】				(決定)	(理由)						
		【ウエイトの修正の有無】											
		年度評価	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容								
		24	評価	ウエイト	評価	ウエイト							
		25											
		26											
		27											
		28											
29													
			1	1	<p>【平成24～27年度の実施状況概略】</p> <p>○平成28年度の大学機関別認証評価の受審に向け、自己評価部会を設置し、本学の自己評価に着手した。業務評価の結果については適切にフィードバックした。</p> <p>○自己評価部会が実施した、教職員、学生及び卒業生に対するアンケート調査結果を「自己評価部会だより」として学内に配付するとともに、調査結果を受け、学生のプライベートカードの扱いの変更、自習室の拡大等の改善を行った。</p> <p>○県評価委員会の評価結果を全学説明会で教職員に周知するとともに、評価の低い事項については改善策を検討し、大学運営に反映した。</p> <p>【平成28、29年度の実施予定】</p> <p>○大学機関別認証評価の受審に向け、自己評価書を策定し、平成28年6月末までに認証評価機関に提出する。平成28年10～平成29年1月を目途に認証評価機関による訪問調査を受ける。</p> <p>○認証評価機関による評価結果を全学説明会で教職員に周知するとともに、評価の低い事項については、改善策を検討し、速やかに大学運営に反映する。</p> <p>○自己評価部会が実施した教職員、学生及び卒業生に対するアンケート調査結果を検証するとともに、継続してアンケート調査を実施する。</p> <p>○県評価委員会の評価結果を全学説明会で教職員に周知するとともに、評価の低い事項については、改善策を検討し、速やかに大学運営に反映する。</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>		中期 ○				
<p>(評価委員会)</p> <p>【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)</p>													
【自己評価の修正の有無】				(決定)	(理由)								
【ウエイトの修正の有無】													
中期目標期間評価 (暫定評価を含む)	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容										
24～27年度(4年間)	評価	ウエイト	評価	ウエイト									
24～29年度(6年間)													

中期計画		平成27年度計画	ウエイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号			
項目	実施事項		中期	年度		中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度	
2. 全国唯一の公立歯科大学としてのブランドイメージの確立 1. 教育研究活動等の積極的な情報発信 2. 高校生向けの広報誌の発行及びITを活用した授業配信の実施 3. 百周年記念事業の活用	1【教育・研究活動情報及び研究実績の学外への積極的な発信】 ①大学の教育方針(アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー)を広く学外に発信する。 ②大学の特色ある教育内容をホームページやQ-shidaiゼミで公開し、外に開かれた大学イメージを醸成する。 ③大学の成果をまとめた広報冊子を作り公開するほか、大学案内を刷新する。 ④教育研究活動情報公開制度に対応してホームページを充実する。	1-1	1	1	【平成27年度の実施状況】 ○平成27年10月1日に学長のリーダーシップのもとに「1. 前文、2. 九州歯科大学の基本理念、3. 教育研究目標」からなる「九州歯科大学憲章」を制定し、リーフレットを作成して配付するとともに、ホームページに公表した。 ○本学の教育方針をアウトカム基盤型教育に変更することに伴い、これまで定めていたアドミッションポリシー、カリキュラムポリシーおよびディプロマポリシーを抜本的に見直し、歯学科、口腔保健学科、大学院におけるそれぞれのアドミッションポリシー、カリキュラムポリシーおよびディプロマポリシーを作成した。 ○「歯大祭」における市民公開講座、「4大学スクラム講座(市民公開講座)」、「高齢者の健康増進をテーマとした一般市民向けのシンポジウム」、「お口の健康セミナー(きれいで元気に長生きするために)」の市民公開講座を通して、本学の特色ある授業や研究活動を外部に公開できた。 ○大学案内の内容を更新し、大学の業績について掲載を行った。 ○ホームページを企画広報誌を中心に常時精査し、随時教育活動情報を更新している。 ○文部科学省の情報ひろばにおいて、九州歯科大学の研究成果を展示を行った。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】			40		
		【評価委員会】 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)										
		【自己評価の修正の有無】				(決定)	(理由)					
		【ウエイトの修正の有無】										
		年度評価	自己評価	評価委員会	評価	ウエイト	評価	ウエイト				
		24										
		25										
		26										
		27										
		28										
29												
				1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○歯学部歯学科、歯学部口腔保健学科、および大学院歯学研究科各々のアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーをホームページで公開するとともに、大学案内パンフレットや入学募集要項等に掲載し、学内はもとより、広く学外へ発信した。 ○本学の特色ある教育内容をホームページで公開するとともに、オープンキャンパスや大学案内等でも公表した。平成25年度には、ホームページをリニューアルし、「教育情報公表」ページを作成し、大学の理念、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーほか教育研究活動情報を積極的に配信するとともに、大学案内、募集要項、大学自己評価部会だより等にも同様の情報を記載した。H27年度には「九州歯科大学憲章」を制定し、公表した。 ○学術大会や市民公開講座を通して、本学の特色ある授業や研究活動を外部に公開した。 ○大学案内を毎年刷新し、大学の成果の公開を行っている。 ○リニューアルしたホームページは企画広報誌を中心に常時精査し、随時教育活動や業績の情報を更新している。 【平成28、29年度の実施予定】 ○アウトカム基盤型教育に基づいた、歯学科、口腔保健学科、大学院におけるそれぞれのアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー及びコンピテンシーの作成を行う。それに基づいて、カリキュラムの大幅な再編を行う。 ○学術講演会や市民公開講座を通じて本学の特色ある授業や研究活動の外部への公開を継続する。 ○企画広報誌を中心に常時ホームページを精査し、随時教育活動や業績の情報を更新していく。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】			中期 ○		
【評価委員会】 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)												
【自己評価の修正の有無】				(決定)	(理由)							
【ウエイトの修正の有無】												
中期目標期間評価 (暫定評価を含む)	自己評価	評価委員会	評価	ウエイト	評価	ウエイト	業務実績評価書の記載内容					
24～27年度(4年間)												
24～29年度(6年間)												

中期計画		平成27年度計画		ウエイト		計画の実施状況等		自己評価		データ番号		通し番号																																															
項目	実施事項	中期	年度	中期	年度	中期	年度	中期	年度	中期	年度	中期	年度																																														
	2【百周年記念事業を活用した大学情報の発信】 ①広報誌、大学案内及びホームページ等すべての広報媒体を活用し、創立百周年を情報発信する。 ②大学の主要事業について、可能なものは「百周年記念事業」を前面に出して実施する。 ③百周年記念の一環として行う各種事業や新たに作成する記念誌等において大学情報を広く発信する。	2-1	【平成27年度計画】 ○百周年記念事業の残金を資本に設立された九州歯科大学基金を利用し、九州歯科大学のブランドイメージをアジアをはじめ諸外国に発信する。 ・これまでに学術交流締結を行った海外の大学との本格的な教育・研究連携を展開する。 ・アジアおよび欧米の大学とのさらなる学術交流締結を推進する。 ・学生国際交流活動推進プログラムの運用支援を行う。 ・あらたな医療技術普及活動・歯科医療人再教育活動の推進支援を行う。		1	【平成27年度の実施状況】 ○九州歯科大学基金により行った学生海外短期派遣プログラムを実施した。 ・歯学科(タイ:シーナカリンウィロート大学、9月6日～12日)4年次生2名、3年次生2名、引率2名。プログラム内容は、大学、歴史博物館、中央図書館、病院見学のほか、年1回巡回開催されているCommunity dental serviceに参加し、血圧測定やブラッシング指導を実施した。 ・口腔保健学科(台湾:高雄医科大学、9月14日～20日)3年次生2名引率2名。プログラム内容は、高雄医科大学における講義の聴講ほか、本学の学生・大学院生による英語でのプレゼン(自己紹介の他に、九歯大の概要や日本の歯科衛生士業務を説明)および本学教員が臨床実習及び感染対策について英語による講義を実施。 ○海外連携大学からの学生の受入れ ・高雄医科大学(台湾)からの受入れ(6月27日～7月2日)口腔医学院口腔衛生学系4年次生3名、引率教員1名。附属病院見学、ランチミーティング、引率教員の講義、歯周疾患予防処置実習(本学実習室) ・シーナカリンウィロート大学(タイ)からの受入れ(10月12日～26日)歯学歯学部6年次生3名。本館及び病院棟見学、学長と会食、学生および教員との交流。 ・国立台湾大学からの受入れ(10月17日)「日本・アジア青年サイエンス交流事業さらサイエンスプラン」で招聘された国立台湾大学の教授および学生8名が本学を訪問。感染分子生物学分野の研究に関するプレゼンテーションを行い、活発な討論が展開された。また、本学の大学院生も参加し、交流を深めた。 ○九州歯科大学基金を利用して学生国際交流活動推進プログラムの運用支援を行うことが可能となり、九州歯科大学のブランドイメージを諸外国に発信するとともに学術交流締結を行った海外の大学との教育・研究連携をスタートすることができた。 ○平成28年に台北医学大学との学術交流締結に向けて準備を進めている。		A	【高く評価する点】 ○九州歯科大学基金を活用して、私費外国人留学生の入学受け入れをはじめとして、海外連携校との学生相互派遣活動など様々な活動を展開し、国内外にむけて、九州歯科大学のプレゼンスを高めた。 【実施(達成)できなかった点】				41																																														
<p>【評価委員会】 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)</p> <p>【自己評価の修正の有無】 (決定) (理由)</p> <p>【ウエイトの修正の有無】</p>																																																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">自己評価</th> <th colspan="2">評価委員会</th> <th rowspan="2">業務実績評価書の記載内容</th> </tr> <tr> <th>評価</th> <th>ウエイト</th> <th>評価</th> <th>ウエイト</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>24</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>25</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>26</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>27</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>28</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>29</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>														年度	自己評価		評価委員会		業務実績評価書の記載内容	評価	ウエイト	評価	ウエイト	24						25						26						27						28						29					
年度	自己評価		評価委員会		業務実績評価書の記載内容																																																						
	評価	ウエイト	評価	ウエイト																																																							
24																																																											
25																																																											
26																																																											
27																																																											
28																																																											
29																																																											
					1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○平成26年5月10日に開催する記念式典・祝賀会の成功に向けて各種新聞に百周年事業を広報し、平成25年5月11日の創立記念日に、第2回九州歯科大学学長賞表彰式および九州歯科大学創立百周年第1回記念フォーラムを開催し、学生並びに教員に対し、大学の活性化への貢献および創立百周年記念事業の積極的参加を呼びかけた。創立百周年事業専用のホームページを立ち上げ、本学や同窓会のホームページとリンクするようとした。ロゴマークは、大学所定の封筒、教職員の名刺、入学募集要項、学生手帳当の他、学内各分野が主催する学会や講演会のポスターに掲載し、全国的にもアピールした。平成25年11月24日に九州歯科大学創立百周年第2回市民公開講座(場所:北九州芸術劇場、タイトル:食と咀嚼～口から変わる命)を開催し、多くの地域住民参加の下で、本学百年の歴史をアピールした。平成26年3月1日より5月11日まで九州歯科大学創立百周年記念事業の一環として「九州歯科大学史料展」を開催し、百年の歴史資料を一般公開した。平成25年度に、ミャンマーYangon大学およびMandalay大学、タイSrinakharinwirot大学、フィンランドHelsinki 大学、台湾高雄医学大学、カナダBritish Columbia大学香港大学、インドSri Ramachandra大学と、平成26年度にタイRangsit大学と学術交流を締結するとともに本学主催のアジア太平洋国際カンファレンスを開催し、連携大学より講師を招聘した。 ○九州歯科大学創立百周年事業の残金を基に設立した九州歯科大学基金により、タイ:シーナカリンウィロート大学および台湾:高雄医科大学へ学生海外短期派遣プログラムを実施した。また、高雄医科大学(台湾)やシーナカリンウィロート大学(タイ)からの学生の受入れを行い、九州歯科大学のブランドイメージを諸外国に発信するとともに学術交流締結を行った海外の大学との教育・研究連携をスタートすることができた。 【平成28、29年度の実施予定】 ○九州歯科大学基金により行った学生海外短期派遣プログラムを継続するとともに大学院生の留学プログラムを模索する。 ○海外連携校の学生受け入れおよびさらなる学術交流締結を推進する。 ○本学主催のアジア太平洋国際カンファレンスを継続して行う。		B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】			中期 ○																																															
<p>【評価委員会】 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)</p> <p>【自己評価の修正の有無】 (決定) (理由)</p> <p>【ウエイトの修正の有無】</p>																																																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">中期目標期間評価 (暫定評価を含む)</th> <th colspan="2">自己評価</th> <th colspan="2">評価委員会</th> <th rowspan="2">業務実績評価書の記載内容</th> </tr> <tr> <th>評価</th> <th>ウエイト</th> <th>評価</th> <th>ウエイト</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>24～27年度(4年間)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>24～29年度(6年間)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>														中期目標期間評価 (暫定評価を含む)	自己評価		評価委員会		業務実績評価書の記載内容	評価	ウエイト	評価	ウエイト	24～27年度(4年間)						24～29年度(6年間)																													
中期目標期間評価 (暫定評価を含む)	自己評価		評価委員会		業務実績評価書の記載内容																																																						
	評価	ウエイト	評価	ウエイト																																																							
24～27年度(4年間)																																																											
24～29年度(6年間)																																																											
ウエイト総計				中期	27年度	項目数計						中期	27年度																																														
				3	3							3	3																																														

【ウエイト付けの理由】(年度計画)

【ウエイト付けの理由】(中期計画)

評価及び情報公開に関する特記事項(平成27年度)	
評価及び情報公開に関する特記事項(平成24年度～平成27年度)	
【評価委員会】 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)	【意見・コメント等】
評価及び情報公開に関する特記事項の業務実績評価書(平成24年度～平成27年度)の記載内容	

特記事項

中期計画に記載している実施内容以外で、特筆すべき事項があれば、簡潔に記載してください。

※「教育」、「研究」、「社会貢献」、「業務運営」、「財務」、「評価及び情報公開」の枠組みにとらわれなくとも構いませんが、関連する通し番号がある場合は必ず記載してください。

なお、記載にあたっては、取組内容だけでなく、取組みの成果や効果等があれば、併せて記載してください。

特記事項(平成27年度)	関連する通し番号	評価委員会	
		【報告内容に関して確認した事項】 (事務局補足事項)	【意見・コメント等】
<p>○「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COCプラス)」</p> <p>北九州市内の10大学、下関地区2大学および北九州工業高等専門学校の13機関が連携して、地域に密着した教育活動を展開するというを目的にした、文部科学省補助金事業「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COCプラス)」が採択された。事業の企画書並びに計画書の作成については、学長の指示のもと企画広報班が担い、主幹校である北九州市立大学と綿密なやりとりを行った。本校は、一つのプロジェクトである「北九州地区 CCRC による高齢者 QOL ビジネス創出」のチームリーダーを担当し、5年間の事業プランのなかで、北九州ひいては福岡県内で、高齢者の生活の質の向上を目指す CCRC 事業を展開する。初年度となる平成27年度は、連携校である西南女学院大学、西日本工業大学とともに公開講座を開催し、CCRC構築に向けて、地域住民への情報発信を行った。</p> <p>この事業を通じて北九州地区CCRCを、福岡県CCRCという枠組に発展させていく。その前提として、今年度連携協定を締結した豊前市・豊前築上歯科医師会をモデルケースとして、地域貢献・地方創生という観点から、地域包括医療を担う九州歯科大学像を残された2年の第2期中期計画のなかで、確かな形に作り上げていく。</p>	18,19,21,25,40		

特記事項

中期計画に記載している実施内容以外で、特筆すべき事項があれば、簡潔に記載してください。

※「教育」、「研究」、「社会貢献」、「業務運営」、「財務」、「評価及び情報公開」の枠組みにとらわれなくとも構いませんが、関連する通し番号がある場合は必ず記載してください。

なお、記載にあたっては、取組内容だけでなく、取組みの成果や効果等があれば、併せて記載してください。

特記事項(平成24年度～平成27年度)	関連する通し番号	評価委員会	
		【報告内容に関して確認した事項】 (事務局補足事項)	【意見・コメント等】
<p>○九州歯科大学創立百周年関連事業</p> <p>九州歯科大学は平成26年度に創立百周年を迎えた。平成24年度から創立百周年に向けた公開講座等さまざまなイベントを開催し、集大成となる平成26年度は創立記念式典や記念講演会などのイベントを開催した。記念式典では、文部科学副大臣、福岡県知事、北九州市長など行政関係者のほか、歯科医学関係者、海外連携校関係者、本学出身者など、総勢800名を越える参加があり、九州歯科大学の百年の歴史並びにこれからの展開について広く伝えることができた。創立百周年事業を機会に、新聞やテレビ等のメディアを通じて、広く九州歯科大学の情報を発信し、ブランドイメージの周知を行うことができた。また、九州歯科大学創立百周年記念事業募金の残金を基に、九州歯科大学基金を設立。本学の教育研究目標である自立的・戦略的な「国際的に貢献する歯科医療人の育成」を促進するために、本学および海外留学生の研修支援、本学大学院に入学する留学生の生活支援、学校教育のために海外研究者・臨床医の招聘、学生の国際的歯科保健活動への参加に対する援助等を目的にしたものであり、平成27年度はこの基金を利用して6名の学生が海外連携校へ短期留学を行った。</p> <p>この百周年関連事業を本学のイノベーション活動における1つのプロセスとしてとらえ、次の歯学教育の改善につなげるという考え方で遂行した。そのことを示す一例が「九州歯科大学憲章」の制定である。この憲章を軸に、3つの教育に係るポリシー(アドミッションポリシー、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー)を改正した。さらに歯科医学教育センター主導で、卒業コンピテンシーを作成し、現在行われている教育をアウトカム基盤型教育の考え方のもと再編しているところである。第2期中期計画期間中の平成28年度にカリキュラムマップを作り上げる予定である。あわせて、2015年から創立記念日5月11日を休日とせず、大学の学生・教職員が一体化して活動する1日とすることを決定した。</p>	22,40,41		
<p>○(株)ウチヤマホールディングス、(公財)北九州産業学術推進機構(FAIS)との連携協定</p> <p>産学連携の分野においては、(株)ウチヤマホールディングス、(公財)北九州産業学術推進機構(FAIS)と本学との三者において、医療・介護分野における協定を締結し、研究成果の社会活用を強化するとともに、先端的かつ広い視野を有する人材を育成、および新規技術の創出を目指して、連携・協力を進めていくことを合意した。この協定を活かし、(株)ウチヤマホールディングスの介護施設における口腔ケアサービスの向上を図るとともに、介護現場での実習を通しての優秀な歯科医師および歯科衛生士の養成や卒業生の活躍の場の拡張、医療機器の開発の推進等の研究を展開していく。平成26年度は、(株)ウチヤマホールディングスが運営している介護施設へ本学教員を派遣し、口腔ケア事業を通じて、地域高齢者のQOL(生活の質)の向上につなげる活動を行った。平成27年度からは(株)ウチヤマホールディングスからの寄附金による寄附講座を開設し、高齢者の口腔支援に向けた取り組みを充実させている。</p>	2,14,19,24		
<p>○学長重点研究費の制定と活用</p> <p>第2期中期目標の達成に資する研究に重点配分する学長重点研究費の仕組みを改めた。「問題解決型」「FS研究」「歯工学連携」の3つの分野の研究に対して配分するだけでなく、この研究費を活用して、平成24年度に国際会議である第1回Asia-Pacific Conference in Fukuoka 2013を開催し、研究成果の発信に努めた。平成25年度までは学長重点研究費を活用して行われ、以降も継続している。また、平成26年度は、学長重点研究費を活用して、学生の短期海外派遣プログラムをトライアルとして実施。5名の学生がタイと台湾の連携校に派遣された。平成27年度からは、九州歯科大学基金を利用した正式な事業として行われ、6名の学生が短期留学を行った。このように、第2期中期目標を達成するための新たな事業を展開する資金として活用されている。</p>	16,22,41		
<p>○「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COCプラス)」</p> <p>北九州市内の10大学、下関地区2大学および北九州工業高等専門学校の13機関が連携して、地域に密着した教育活動を展開するというを目的とした、文部科学省補助金事業「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COCプラス)」の採択を受けた。事業の企画書並びに計画書の作成については、学長の指示のもと企画広報班が担い、主幹校である北九州市立大学と綿密なやりとりを行った。本校は、一つのプロジェクトである「北九州地区 CCRC による高齢者 QOL ビジネス創出」を担当し、5年間の事業プランのなかで、北九州ひいては福岡県内で、高齢者の生活の質の向上を目指す CCRC 事業を展開し、5年間の活動を通じ、地域包括医療に向かう医療体制の変化に歯科医療がどのように対応していくかという点について、具体的な姿を提示することができるような成果を上げていくつもりである。</p>	18,19,21,25,40		

その他中期計画において定める事項

中期計画		年度計画			自己評価
		計画	実績		
I 収支計画予算及び資金計画予算	1. 収支計画予算	(百万円)			
		区分	予算額(a)	決算額(b)	
		費用の部	3,435	3,370	▲ 65
		経常費用	3,435	3,358	▲ 77
		業務費	3,160	3,076	▲ 83
		教育研究経費	389	369	▲ 20
		診療経費	649	658	8
		受託研究費等	27	6	▲ 21
		人件費	2,093	2,042	▲ 50
		一般管理費	272	277	4
		(減価償却費 再掲)	(133)	(139)	(6)
		財務費用	2	2	▲ 0
		雑損	—	1	1
		臨時損失	—	11	11
		収益の部	3,444	3,453	8
		経常収益	3,444	3,451	7
		運営費交付金収益	1,657	1,672	14
		授業料収益	400	398	▲ 2
		入学金収益	62	63	0
		検定料収益	10	10	▲ 0
		その他の業務収益	—	1	1
		附属病院収益	1,056	1,068	12
		受託研究等収益	14	6	▲ 7
		補助金等収益	89	70	▲ 18
		寄附金収益	14	21	6
		資産見返運営費交付金等戻入	6	7	1
		資産見返補助金等戻入	53	54	1
		資産見返寄附金戻入	10	10	▲ 0
		資産見返物品受贈額戻入	12	12	▲ 0
		財務収益	0	0	0
		雑益	53	53	▲ 0
		臨時利益	—	1	1
		当期純利益	8	82	74
		当期総利益	8	82	74

2. 資金計画予算		(百万円)			
		区分	予算額(a)	決算額(b)	差額 (b)-(a)
		資金支出	3,341	3,240	▲ 100
		業務活動による支出	3,294	3,193	▲ 100
		投資活動による支出	18	16	▲ 2
		財務活動による支出	29	30	1
		資金収入	3,364	3,359	▲ 4
		業務活動による収入	3,364	3,359	▲ 4
		運営費交付金収入	1,660	1,672	11
		授業料収入	400	398	▲ 2
		入学金収入	62	63	0
		検定料収入	10	10	▲ 0
		附属病院収入	1,056	1,067	11
		受託研究等収入	14	6	▲ 8
		補助金等収入	89	73	▲ 15
		寄附金収入	14	14	▲ 0
		その他の収入	53	52	▲ 0
		投資活動による収入	0	0	0
		財務活動による収入	—	—	—
II 短期借入金の限度額	1 短期借入金の限度額 3億円 2 想定される理由 運営費交付金の交付時期と資金需要の期間差及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れすること。		該当なし		—
III 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	該当なし		該当なし		—
IV 剰余金の使途	決算において剰余金が発生した場合は、教育研究及び診療の質の向上並びに組織運営の改善に充てる。		該当なし		—
V その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項	1 法第40条第4項の規定により業務の財源に充てることができる積立金の処分に関する計画 なし 2 その他法人の業務に関し必要な事項 なし		該当なし		—